

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
近現代日本史A<1>	伊勢 弘志	2
近現代日本史A<2>	伊勢 弘志	6
近現代日本史A<3>	大江 洋代	10
近現代日本史B<1>	大町 健	14
近現代日本史B<2>	加藤 祐介	18
近現代日本史B<3>	伊勢 弘志	22
戦後の日本と世界<1>	富田 武	26
戦後の日本と世界<2>	加藤 祐介	30
戦後の日本と世界<3>	伊勢 弘志	34
現代日本の地理<1>	小田 宏信	38
現代日本の地理<2>	小田 宏信	42
現代世界の地理<1>	伊藤 修一	46
現代世界の地理<2>	加賀美 雅弘	50
国際教養総合講義(国際文化交流論)	久保 和朗	54
国際教養総合講義(保守主義とリベラルの思想的対立からみたアメリカ政治)	中岡 望	58
国際教養総合講義(世界経済と国際金融)	篠山 善行	62
近現代アジア史A<1>	久保 茉莉子	66
近現代アジア史A<2>	久保 茉莉子	70
近現代アジア史B<1>	久保 茉莉子	74
近現代アジア史B<2>	久保 茉莉子	78
近現代欧米史A<1>	佐伯 哲朗	82
近現代欧米史A<2>	中島 幹人	86
近現代欧米史B<1>	佐伯 哲朗	90
近現代欧米史B<2>	中島 幹人	94
歴史トピックス(中東地域史の諸問題)	佐々木 紳	98
歴史トピックス(日本女性史)	伊集院 葉子	102
アジア地域理解	宋 苑瑞	106
ヨーロッパ地域理解	太西 雅一郎	110
北米地域理解	小田 隆史	114
イスラーム世界理解	堀内 正樹	118
地域理解トピックス(地元学実践演習)	小田 隆史	122
地域理解トピックス(地域づくりの時代)	小金澤 孝昭	126

科目名	近現代日本史 A <1>		
教員名	伊勢 弘志		
科目ナンバー	1401491010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

テーマ・概要	
<p>現代の日本社会の前提でもある19世紀から20世紀にかけての国際環境と社会環境を講義する。世界の潮流と国内の歴史が密接であることを理解するために、歴史学と国際政治学の両分野の蓄積を踏まえた複眼的視角から、脱一国的な歴史理解を求めて近代～現代とはどのような時代であったのかを学習する。</p> <p>各国の相互の関係性から世界情勢を把握する政治学と、政局を体系的に評価する政策決定論および議会政治を中心とする政治史との双方から日本近現代史を学習する。</p>	

到達目標	
<p>1. 近現代とはどのような時代であるのかを知り、その上で現在の日本社会や東アジア情勢の前提が理解できる。</p> <p>2. 脱一国的な視点をすることで、現在の社会・外交問題などについても多面的な分析ができる。</p> <p>3. 当時の社会環境や思想潮流が、どれほど各時代に影響しているかを知ること、国際的な視点によって近現代史の理解ができるようになる。</p>	

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	<p>「近代の世界と東アジア - 2度の黒船来航とは何であったか？」</p> <p>講義計画を確認した上で、近代の幕開けについて学習する。「鎖国」とは何であったのか？ 2度の黒船来航の意味とは何かを考える。</p>	
	<p>シラバスをよく読むこと。</p> <p>講義計画と課題を確認すること。</p>	60
第2回	<p>「岩倉使節団が学んだもの」 - 国際法とアジア</p> <p>岩倉使節団が学習した帝国主義世界のルールとは何か？「徳治」を中心とした東アジアに「法治」が持ち込まれたことの意義と影響を考える。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。</p> <p>復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第3回	<p>「文明開化」とは何か？ - 帝国の世界観</p> <p>「文明開化」とは、西洋列強の水準に合わせた国家システムへの再編であったが、その基となっていた帝国の世界観とはどのようなものかを考える。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。</p> <p>復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60

第4回	「近代日本の東アジア戦略」 - 「主権線・利益線構想」 東アジアを舞台として世界的対立構図の中で、近代日本がどのような軍事戦略構想を立てていたのか？またその戦略の特徴や影響を考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60
第5回	「日清戦争」と「条約改正」 - 帝国主義の道のり 国際情勢の中で行われた日清戦争を外交政略の観点から評価する。また日本とアジアのそれぞれにどのような影響を与えたのかを考察する。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60
第6回	「三国干渉」と日清戦争後のアジア 「力の政治」による国際秩序と、日本への影響を考える。日清戦後の東アジア情勢を踏まえて、清国分割を学習する。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60
第7回	「グレート・ゲーム」と「海上覇権論」 帝国主義的対立として世界規模で展開された「英露対決」と、当時の軍事的思想潮流を学習し、近代日本にどのような影響を与えたのかを考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60
第8回	「世界の中の日露戦争」 日露戦争が世界の対立構図に与えた影響を確認し、「世界の中の日露戦争」を考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60
第9回	「韓国併合」と「辛亥革命」 日露戦争後の東アジア情勢と、日本の外交政略・内政をそれぞれ学習する。列強に仲間入りしようとする日本が選択した進路を考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60

第10回	<p>「第一次大戦と日本の外交」 - 「総力戦」と日米関係 未曾有の世界大戦の戦争規模と影響を踏まえて、大戦に積極参戦した日本の針路と、それによる対米関係への影響を学習する。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第11回	<p>「国際連盟」の創設と世界秩序 「国際連盟」の設立にともなう国際秩序の転換を学習し、戦争が法概念によって違法化される時代について考える。それまでの帝国主義秩序を転換した国際秩序が東アジア情勢にどのように影響したのかを確認し、この後の日本への影響を考える。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第12回	<p>「ワシントン体制」 - 戦争違法化の世界と日本 第11回の講義と併せて「新秩序」・「新外交」の世界的意義を考える。アメリカの主導した「ワシントン体制」とはどのように構想されたのか？また、その下での日本の動静について学習する。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第13回	<p>「軍部台頭」 - ワシントン体制下の日本 動乱の中国情勢に対する日本外交と、軍部台頭の関係を考える。この後の軍部独走・軍国主義が成立する背景には、国内政治にどのような原因があったのかを考察する。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第14回	<p>「二大政党とネガティブ・キャンペーン」 かつての日本における二大政党制の時代を学習し、その特徴・弊害を考える。また、軍部台頭の原因を確認する。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第15回	<p>日本はなぜ「侵略国」となったのか？ 近代日本の外交の生い立ちを振り返り、同時代の国際情勢が当時の日本にどのように認識されたのかを学習する。それぞれの戦争や、日本外交の進路にはどのような意味があり、またその後の歴史にどう影響したのか？総括を行う。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60

#### 授業の方法

毎時レジュメを配布し、リアクション・ペーパーを提出してもらいます。  
レポート（記述式テスト形式）で成績評価を行います。

#### 成績評価の方法

レポート70%、 リアクション・ペーパー（平常点）30%

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- 1、日清戦争の歴史的意義を理解している。
- 2、日露戦争の歴史的意義を理解している。
- 3、日本の軍事戦略と、その変遷を理解している。
- 4、世界大戦による国際秩序の変化と意義を説明できる。
- 5、近代世界と日本の関わりを論述できる。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：近現代日本史B〈3〉・、戦後の日本と世界〈3〉

#### テキスト

伊勢弘志・飛矢崎雅也『はじめての日本現代史 - 学校では“時間切れ”の通史』（芙蓉書房出版、2017年）。

#### 参考書

伊勢弘志『近代日本の陸軍と国民統制』（校倉書房、2014年）。  
井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003年）。  
戸部良一『逆説の軍隊』（中央公論社、1998年）。  
酒井哲哉『近代日本の国際秩序論』（岩波書店、2007年）。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	近現代日本史 A <2>		
教員名	伊勢 弘志		
科目ナンバー	1401491010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

<b>テーマ・概要</b>			
<p>現代の日本社会の前提でもある19世紀から20世紀にかけての国際環境と社会環境を講義する。世界の潮流と国内の歴史が密接であることを理解するために、歴史学と国際政治学の両分野の蓄積を踏まえた複眼的視角から、脱一国的な歴史理解を求めて近代～現代とはどのような時代であったのかを学習する。</p> <p>各国の相互の関係性から世界情勢を把握する政治学と、政局を体系的に評価する政策決定論および議会政治を中心とする政治史との双方から日本近現代史を学習する。</p>			

<b>到達目標</b>			
<p>1. 近現代とはどのような時代であるのかを知り、その上で現在の日本社会や東アジア情勢の前提が理解できる。</p> <p>2. 脱一国的な視点を得ることで、現在の社会・外交問題などについても多面的な分析ができる。</p> <p>3. 当時の社会環境や思想潮流が、どれほど各時代に影響しているかを知ること、国際的な視点によって近現代史の理解ができるようになる。</p>			

<b>授業の計画と準備学修</b>			
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)	
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	「近代の世界と東アジア - 2度の黒船来航とは何であったか？」 講義計画を確認した上で、近代の幕開けについて学習する。「鎖国」とは何であったのか？ 2度の黒船来航の意味とは何かを考える。		
	シラバスをよく読むこと。 講義計画と課題を確認すること。	60	
第2回	「岩倉使節団が学んだもの」 - 国際法とアジア 岩倉使節団が学習した帝国主義世界のルールとは何か？「徳治」を中心とした東アジアに「法治」が持ち込まれたことの意義と影響を考える。		
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60	
第3回	「文明開化」とは何か？ - 帝国の世界観 「文明開化」とは、西洋列強の水準に合わせた国家システムへの再編であったが、その基となっていた帝国の世界観とはどのようなものかを考える。		
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60	

第4回	近代日本の東アジア戦略 - 「主権線・利益線構想」 東アジアを舞台として世界的対立構図の中で、近代日本がどのような軍事戦略構想を立てていたのか？またその戦略の特徴や影響を考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60
第5回	「日清戦争」と「条約改正」 - 帝国主義の道のり 国際情勢の中で行われた日清戦争を外交政略の観点から評価する。また日本とアジアのそれぞれにどのような影響を与えたのかを考察する。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60
第6回	「三国干渉」と日清戦争後のアジア 「力の政治」による国際秩序と、日本への影響を考える。日清戦後の東アジア情勢を踏まえて、清国分割を学習する。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60
第7回	「グレート・ゲーム」と「海上覇権論」 帝国主義的対立として世界規模で展開された「英露対決」と、当時の軍事的思想潮流を学習し、近代日本にどのような影響を与えたのかを考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60
第8回	「世界の中の日露戦争」 日露戦争が世界の対立構図に与えた影響を確認し、「世界の中の日露戦争」を考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60
第9回	「韓国併合」と「辛亥革命」 日露戦争後の東アジア情勢と、日本の外交政略・内政をそれぞれ学習する。列強に仲間入りしようとする日本が選択した進路を考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60

第10回	<p>「第一次大戦と日本の外交」 - 「総力戦」と日米関係 未曾有の世界大戦の戦争規模と影響を踏まえて、大戦に積極参戦した日本の針路と、それによる対米関係への影響を学習する。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第11回	<p>「国際連盟」の創設と世界秩序 「国際連盟」の設立にともなう国際秩序の転換を学習し、戦争が法概念によって違法化される時代について考える。それまでの帝国主義秩序を転換した国際秩序が東アジア情勢にどのように影響したのかを確認し、この後の日本への影響を考える。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第12回	<p>「ワシントン体制」 - 戦争違法化の世界と日本 第11回の講義と併せて「新秩序」・「新外交」の世界的意義を考える。アメリカの主導した「ワシントン体制」とはどのように構想されたのか？また、その下での日本の動静について学習する。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第13回	<p>「軍部台頭」 - ワシントン体制下の日本 動乱の中国情勢に対する日本外交と、軍部台頭の関係を考える。この後の軍部独走・軍国主義が成立する背景には、国内政治にどのような原因があったのかを考察する。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第14回	<p>「二大政党とネガティブ・キャンペーン」 かつての日本における二大政党制の時代を学習し、その特徴・弊害を考える。また、軍部台頭の原因を確認する。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第15回	<p>日本はなぜ「侵略国」となったのか？ 近代日本の外交の生い立ちを振り返り、同時代の国際情勢が当時の日本にどのように認識されたのかを学習する。それぞれの戦争や、日本外交の進路にはどのような意味があり、またその後の歴史にどう影響したのか？総括を行う。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60



#### 授業の方法

毎時レジュメを配布し、リアクション・ペーパーを提出してもらいます。  
レポート（記述式テスト形式）で成績評価を行います。

#### 成績評価の方法

レポート70%、 リアクション・ペーパー（平常点）30%

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- 1、日清戦争の歴史的意義を理解している。
- 2、日露戦争の歴史的意義を理解している。
- 3、日本の軍事戦略と、その変遷を理解している。
- 4、世界大戦による国際秩序の変化と意義を説明できる。
- 5、近代世界と日本の関わりを論述できる。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：近現代日本史B〈3〉、戦後の日本と世界〈3〉

#### テキスト

伊勢弘志・飛矢崎雅也『はじめての日本現代史 - 学校では“時間切れ”の通史』（芙蓉書房出版、2017年）。

#### 参考書

伊勢弘志『近代日本の陸軍と国民統制』（校倉書房、2014年）。  
井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003年）。  
戸部良一『逆説の軍隊』（中央公論社、1998年）。  
酒井哲哉『近代日本の国際秩序論』（岩波書店、2007年）。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	近現代日本史 A <3>		
教員名	大江 洋代		
科目ナンバー	1401491010	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

<b>テーマ・概要</b>			
<p>〈テーマ〉幕末・明治時代通史を天皇のあり方から考えます。この授業の進行中、今上天皇が生前退位します。ではそもそも天皇とは歴史的にどのような存在なのでしょう。天皇がいる国、日本について考えます。これを通じ、今起きている問題を歴史的に考え、今起きていることに自分なりの考えをもって向き合う知性を鍛えます。</p> <p>〈概要〉「権力はないが権威がある」「万世一系」「象徴」……。皆さんは中学、高校と天皇についてどう学んできたでしょうか。そして今、天皇についてどう思いますか。これまでの皆さんの天皇に対する知識や感性を踏まえつつ、近代日本になぜ天皇が必要とされたのか、政治家、民衆は天皇をどう見ていたのか、それが時代によってどう変化していったのか、天皇という分析視角を通じて明治期における政治と社会の双方の変化を通史的に考察していきます。</p>			

<b>到達目標</b>			
<p>〈前提〉歴史とは教科書や年表に出ていることがすべてではありません。国や立場、時代によって歴史の見方は様々です。その歴史的な説明の仕方は無数にあります。</p> <p>〈到達目標〉その多様性を知り、自ら史料や先行研究をひもとき、何が真実であったのか自分なりの歴史像を説明できる力を身につけます。歴史を通じて、国際的で柔軟で理論的な思考力を養うことを目的とします。</p>			

<b>授業の計画と準備学修</b>			
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)	
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	<p>ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生が歴史を学ぶ意味</li> <li>・天皇から明治維新、明治時代を見通す意味</li> <li>・ミニレポート執筆①「明治維新とは何か」、②「天皇とは何か」</li> </ul>		
	<p>【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。</p>	20	
第2回	<p>歴史と今はどのようにつながっているのか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨今話題となった教育勅語を読みます。その制定経緯、運用、なぜ廃止されたのか、そしてなぜ今また話題に上るのか、時代をつなげて考えることを通じて、歴史を見る目を磨きます。</li> </ul>		
	<p>【復習】講義内容を振り返り、理解を深める。</p>	60	
第3回	<p>明治維新とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回に書いていただいたミニレポートを元に、フィードバックを行います。受講者それぞれの多様な歴史の見方を踏まえることで、歴史的にもの考えるためのウォーミングアップを行います。</li> </ul>		
	<p>【復習】講義内容を振り返り、理解を深める。</p>	60	

第4回	<p>天皇とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回に書いていただいたミニレポートを元に、フィードバックを行います。受講者それぞれの多様な歴史の見方を踏まえることで、歴史的にものを考えるためのウォーミングアップを行います。</li> </ul>	
	<p>【復習】 講義内容を振り返り、理解を深める。</p>	60
第5回	<p>古代から今日までの天皇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各時代の天皇のあり方を通史的に見ることで、各時代に天皇が果たした役割を考えます。</li> </ul>	
	<p>【復習】 講義内容を振り返り、理解を深める。</p>	60
第6回	<p>光格天皇登場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近代の天皇のかたちを考えるためには、幕末に登場した光格天皇の理解が欠かせません。内憂外患の時代に登場した光格天皇の歴史的意味を考えます。</li> </ul>	
	<p>【復習】 講義内容を振り返り、理解を深める。</p>	60
第7回	<p>公議輿論と朝廷</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ、幕府はペリー来航の際、外交対応を朝廷に報告する必要があったのでしょうか。明治期以降の議会政治に至る、スタート地点としてこの出来事を考えます。</li> </ul>	
	<p>【復習】 講義内容を振り返り、理解を深める。</p>	60
第8回	<p>尊皇攘夷と孝明天皇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幕末に吹き荒れた「尊皇攘夷」の風潮を当事者の孝明天皇はどのようにとらえていたのでしょうか。これを通じて天皇の個性が実際の政局に与える影響を考えます。</li> </ul>	
	<p>【復習】 講義内容を振り返り、理解を深める。</p>	60
第9回	<p>朝幕政権と孝明天皇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月18日の政変以降における幕府の政権運営を天皇との関係で見えていきます。幕府の一部と一体化した天皇を倒幕派はどう見ていたのか考えます。</li> </ul>	
	<p>【復習】 講義内容を振り返り、理解を深める。</p>	60

第10回	<p>維新政権と明治天皇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発足した維新政権は、その唯一の正当性をいえる天皇をどのようなかたちとしようと考えたのか考えます。</li> </ul>	
	<p>【復習】 講義内容を振り返り、理解を深める。</p>	60
第11回	<p>明治政府と明治天皇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明治10年代に起きた天皇のかたちをめぐる議論を通じて、近代天皇制の様々な可能性について考えます</li> </ul>	
	<p>【復習】 講義内容を振り返り、理解を深める。</p>	60
第12回	<p>国民と明治天皇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人々に天皇はどう浸透したのか、人々は天皇をどう見ていたのかを検討し、国民と天皇の関係について考えます。</li> </ul>	
	<p>【復習】 講義内容を振り返り、理解を深める。試験の準備を行う。</p>	120
第13回	<p>近代天皇制の設計図</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明治憲法における天皇の位置づけを検証することを通じ、明治期立憲制の意味を考えます。</li> </ul>	
	<p>【復習】 講義内容を振り返り、理解を深める。試験の準備を行う。</p>	120
第14回	<p>論述式の到達度確認試験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子機器以外持ち込み可です。試験問題は初回に示お示します。</li> </ul>	
	<p>【予習】 試験準備を行う。 【復習】 試験解答を振り返る。</p>	120
第15回	<p>試験の振り返り、講評。</p>	
	<p>【復習】 自分以外の参加者の解答を振り返り、自らの歴史像を豊かにする。</p>	60

#### 授業の方法

毎回リアクションペーパーを任意で提出していただきますので、前回のリアクションペーパーのリプライを30分ほど行います。全員分のリアクションペーパー（学籍番号、名前は消します）を貼付したプリントを配布します。その後、その日のテーマに入ります。まず、その日のテーマのいわゆる「通説」について概説します。その後、「通説」を様々な角度から検証するため、外国では同じテーマがどのように語られているのか、また一次史料や最新の研究成果についてお示しします。ここでは史料等のプリントを配布します。映像や音声も積極的に利用していきます。皆さんの興味関心で動く授業ですので、進度に関してはシラバス通りに進まないこともありますことをご了承いただければ幸いです。

#### 成績評価の方法

試験100パーセント。  
出席はとりませんが、ミニレポート（第1～2回任意提出）及び、リアクションペーパーのおもしろさに基づく授業への貢献度（第3～13回任意提出）によって加点していきます。

#### 成績評価の基準

- ・ 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
- ・ 歴史には、国や立ち位置によって様々な見方があるということを理解しているか。
- ・ 多様な歴史像を踏まえた上で、先行研究や史料を使って自分なりの歴史像を説明できるか。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありませんが、みなさんの考えたことによって動く授業です。したがって毎回自分の意見を作ることを求めます。考えることをいとわないみなさん、互いにインスパイアしあうことを楽しみにできるみなさんをお待ちしています。

#### テキスト

特にありません。

#### 参考書

参考書は授業中に適宜指示します。また、授業のなかで関連資料を配付します。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	近現代日本史B <1>		
教員名	大町 健		
科目ナンバー	1401491020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

### テーマ・概要

20世紀前半の日本の50年間は、日露戦争、第一世界大戦、満州事変、日中戦争、アジア太平洋戦争と戦争の時代といつてよいでしょう。なぜ日本は、中国さらにはアメリカをはじめとする連合国と戦争するに至ったのか、他の選択肢はなかったのかを考えると、注目すべきは、第一次大戦から満州事変の十数年間の日本は、基本的には国際平和を求める協調外交の時代だったことです。なぜ戦争に至ったかは、なぜ協調外交を生かすことができなかったのかという問題でもあります。これらの問題を基本的な史料に基づいて考えることを授業のテーマとします。

### 到達目標

DP1（教養の修得）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）の実現のために以下の五点を到達目標とします。

- (1) 外交の転換とその国際的要因について歴史過程とその因果関係を理解し、論述できる。
- (2) 外交の転換とその国内的要因について歴史過程とその因果関係を理解し、論述できる。
- (3) 協調外交と金融恐慌の関係について歴史過程とその因果関係を理解し、論述できる。
- (4) 満州事変の前提とその結果について歴史過程とその因果関係を理解し、論述できる。
- (5) 日中十五年戦争について歴史過程とその因果関係を理解し、論述できる。

### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	はじめに 授業の内容、進め方を説明し、課題を提示する。	
	〔予習〕 シラバスをよく読んで、授業の内容目的、到達目標を確認する。 〔復習〕 授業の内容、目的、課題を確認する。	60分
第2回	第1次世界大戦と日本の中国進出 第1次世界大戦は初めての世界戦争であり、日本はそのなかで中国に二十一カ条要求によって進出をはかったことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分
第3回	ベルサイユ体制と民族自決 第1次世界大戦後、世界は民族自決を認めた平和維持をはかるベルサイユ体制が成立したことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分

第4回	外交の転換とワシントン体制 太平洋地域でのワシントン体制の成立にともなって、日本も二十一カ条要求を放棄し、対中国協調をはかる外交の転換をおこなったことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分
第5回	政党内閣の成立と外交の転換 日本の外交の転換の背景には、国内における戦争と軍拡への不満にもとづく政党内閣の成立があることを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分
第6回	大正デモクラシーと外交の転換 政党内閣の成立は、大正デモクラシーの運動をともなっていたが、そこには民本主義とならんで民族自決を認める動きがあったことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分
第7回	協調外交 外交の転換は協調外交として結実したが、中国においては民族運動が進み、北伐によって日本の権益が危うくなったことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分
第8回	金解禁 協調外交によって中国市場をめざした日本が、一方で金解禁を必要としたことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分
第9回	金融恐慌 北伐への不干渉政策をとる政府に対する不満をもつ勢力によって、金融恐慌が拡大していったことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分

第10回	積極外交と協調外交 積極外交の政府のもとでの中国干渉は失敗し、協調外交をとる政府にもどるが、中国における民族運動の盛り上がりによって日本の中国における権益の危機が現実化したことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分
第11回	満州事変 関東軍による満州事変によって満州国が作られたが、国際連盟から脱退し、国際的に孤立したことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容をまとめる。	60分
第12回	日中戦争 日本と中国の対立は激化し、日本は中国との全面戦争に突入したことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分
第13回	アジア太平洋戦争 日中戦争の行き詰まりのなかで、米英との対立も激化し、日本が第2次世界対戦の一部であるアジア太平洋戦争に突入し、敗戦へと向かっていったことを学ぶ。	
	〔予習〕 授業内容について、参考図書等によって、基礎的知識を学ぶ。 〔復習〕 授業内容を文章にまとめる。	60分
第14回	まとめ (1) 授業前半の課題についてまとめる。	
	〔予習〕 授業の課題にもとづいて文章をまとめる。 〔復習〕 まとめを確認する。	120分
第15回	まとめ (2) 授業後半の課題についてまとめる。	
	〔予習〕 授業の課題にもとづいて文章をまとめる。 〔復習〕 まとめを確認する。	120分



#### 授業の方法

最初に授業の課題を提示します。最初に前回の復習をし、史料プリントを配り、板書をしながら授業をすすめます。何回か毎に、質問・意見を提出してもらう機会をつくります。学期の最後に、授業の課題についての筆記試験をおこないます。

#### 成績評価の方法

授業中に提出した質問・意見30%、学期末の筆記試験70%によって評価します。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。さらに以下の点に着目して評価します。

- (1) 外交の転換とその国際的要因について歴史過程とその因果関係を理解し、正確に論述できるか。
- (2) 外交の転換とその国内的要因について歴史過程とその因果関係を理解し、正確に論述できるか。
- (3) 協調外交と金融恐慌の関係について歴史過程とその因果関係を理解し、正確に論述できるか。
- (4) 満州事変の前提とその結果について歴史過程とその因果関係を理解し、正確に論述できるか。
- (5) 日中十五年戦争について歴史過程とその因果関係を理解し、正解に論述できるか。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本近現代史A、戦後の日本と世界

#### テキスト

特になし。

#### 参考書

高校日本史教科書  
岩波新書シリーズ日本近現代史  
成田龍一著『大正デモクラシー』  
加藤陽子著『満州事変から日中戦争へ』  
吉田裕著『アジア・太平洋戦争』  
『日本の時代史』19～23巻、吉川弘文館  
その他の参考文献については随時授業中に指示します。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	近現代日本史B <2>		
教員名	加藤 祐介		
科目ナンバー	1401491020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

#### テーマ・概要

テーマ：日本近代の国家と社会

本講義では前史としての明治期を踏まえつつ、主に第一次世界大戦から第二次世界大戦に至るまでの日本の歴史を講義する。その際、国民国家の形成・展開と天皇、政党政治の展開過程、戦争と政治・社会、といった論点を重視する。

#### 到達目標

- ①日本近代史について基礎的な事実関係を理解するとともに、事象間の因果関係を時間軸のなかで考える姿勢を身につける。(DP1)  
 ②受講票への記入を通して、自分の考えを自分の言葉で表現することができる。(DP5)

#### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 講義の概要、成績評価の方法などを説明する。	
	(予習) シラバスを読み、講義の概要を理解する。	10
第2回	明治憲法体制の形成とその特徴 明治憲法の制定過程と明治憲法下の政治の枠組みについて理解する。	
	(復習) 講義で配布したレジメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。	60
第3回	国民国家の形成と天皇 日本近代において国民国家の形成が目指されたことと、その過程において天皇・皇室が果たした役割について理解する。	
	(復習) 講義で配布したレジメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。	60

第4回	日露戦後～大正初期の政治と社会 当該期の権力構造、経済状況、社会運動の実相（都市民衆騒擾など）について理解する。	
	（復習）講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。	60
第5回	第一次世界大戦の世界史的意義と日本 第一次世界大戦の世界史的意義と日本の対応のあり方について理解する。	
	（復習）講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。	60
第6回	大正デモクラシーの思想と運動 第一次世界大戦前後における社会運動について、前の時期、後の時期と対比しつつ理解する。	
	（復習）講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。	60
第7回	大正デモクラシーのなかの皇室と華族 国民統合の要である皇室と、特権階級である華族が、大正デモクラシーのなかで自己変革を図っていく過程について理解する。	
	（復習）講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。	60
第8回	政党内閣制の形成 原敬内閣～加藤高明内閣期における内政と外交について、政党内閣制の形成という視点を踏まえつつ理解する。	
	（復習）講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。	60
第9回	政党内閣制の展開と崩壊 若槻礼次郎内閣～犬養毅内閣期における内政と外交について、政党内閣制の崩壊要因にも着目しつつ理解する。	
	（復習）講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。	60

第10回	「挙国一致」内閣期の政治と外交 「挙国一致」内閣期について、対外的な緊張の昂進のなかで協調外交がどう変容したのか、なぜ政党内閣制に復帰できなかったのかという点を中心に理解する。	
	(復習) 講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。	60
第11回	「革新」勢力の動態 1930年代の社会運動について、同時代において高唱された「革新」という概念に着目しつつ理解する。	
	(復習) 講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。	60
第12回	日中戦争前後の政治と経済 日中戦争期の政治と外交、戦時統制経済の特質について理解する。	
	(復習) 講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。	60
第13回	アジア・太平洋戦争への道 アジア・太平洋戦争の開戦に至る政治過程について理解する。	
	(復習) 講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。	60
第14回	総力戦下の社会変容 総力戦期の社会について、矛盾の噴出状況、社会の平準化(=合理化)作用の両面に着目しつつ理解する。	
	(復習) 講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。	60
第15回	まとめ 講義のまとめを行う。	
	(復習) 講義の全体を復習し、期末試験に備える。	240

#### 授業の方法

配布した資料をもとに講義形式で行う。  
毎回受講票に記入してもらい、次回の講義の冒頭で講義担当者が応答する。

#### 成績評価の方法

期末試験（70%）、受講票の記入など平常点（30%）

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

#### テキスト

特になし

#### 参考書

小風秀雅『大学の日本史 教養から考える歴史へ 4』（山川出版社、2016年）  
北岡伸一『日本政治史』（有斐閣、2011年）  
加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』（朝日出版社、2009年）  
この他にも授業中に適宜紹介する。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	近現代日本史B <3>		
教員名	伊勢 弘志		
科目ナンバー	1401491020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

### テーマ・概要

戦前から戦後社会までの「日本現代史」をテーマとして、国内政治史と国際情勢（冷戦構造とその変容）を中心に、敗戦後に解体された国内体制（断絶面）と、戦後の体制転換を迎えながらも残された戦前の政治的影響（連続面）を講義する。  
 戦後日本がどのような国際環境の中で戦争を行い、戦後復興を遂げたのかを知り、またそれは、社会や国民にどのような影響を与えたのかを理解することを目的とする。

### 到達目標

1. 現在の日本社会や世界情勢の前提となった戦後史を理解できる。
2. 戦前～戦後史を通史的に把握することで、日本の政治外交について多面的な分析ができる。
3. 専門的知識を獲得したうえで、国際問題・社会問題にもなっている歴史認識問題や歴史教育・教科書問題を考えていくことができる。

### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	「なぜ現代史を学ぶのか？」 講義計画を確認する。日本の近現代史が国際情勢の一環として進んできたことを考え、「なぜ今この勉強をするのか？」を確認する。	
	シラバスをよく読むこと。 講義計画と課題を確認すること。	60
第2回	「第二次世界大戦に至る国際情勢と国際秩序」 第一次大戦後の国際秩序の形成と、日本がそのルールを受容した過程を学習する。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60
第3回	「ワシントン体制と新外交 - 二大政党の時代と軍部」 国際社会における新外交の展開と、国内における政党政治から、軍部台頭の背景を考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60

第4回	<p>「満州事変の影響と国際連盟の脱退 - 陸軍による世界秩序への挑戦」  満州事変から日中戦争に至る経過を国内の政治過程とともに考える。満州事変がどのように引き起こされたか？また国内ではテロが頻発した背景を、それぞれ学習する。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第5回	<p>「日中戦争の全面展開と近衛文麿内閣」  近衛内閣の対中方針と日中戦争の全面化を学習し、揺れ動く外交方針から戦争の国内的要因を考える。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第6回	<p>「『枢軸世界』の創出 - 日独伊三国軍事同盟の締結」  日独防共協定から日独伊三国軍事同盟に至る経過を確認し、防共協定と三国軍事同盟の意義の違いを学習して、英米との対立が決定づいた要因を考える。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第7回	<p>「衝撃の『独ソ戦』と外交戦略」  近衛内閣の外交および三国同盟締結と、武力南進の関係性を考える。「枢軸同盟」の根拠となった「松岡外交」を学習し、その影響を確認する。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第8回	<p>「アジア・太平洋戦争の諸相 - 『大東亜共栄圏』と戦場」  戦線を拡大する日本軍と戦場の諸相を学習する。戦争までの日米間における交渉過程や、兵士にとっての戦場体験を考える。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第9回	<p>「敗戦への道と昭和天皇の『聖断』 - 戦争の被害と実態」  戦争の加害・被害・実態を学習し、昭和天皇の「聖断」と同時代の戦争認識を考える。</p>	
	<p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60

第10回	<p>「戦争とメディア - 戦前から戦後の復興まで」 ラジオ・テレビ・映画などメディア展開の特徴から各時代の文化を知り、メディアを史料化することで同時代の戦争認識・生活意識に迫る方法を学習する。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第11回	<p>「戦後世界と冷戦構造 - 『逆コース』と朝鮮戦争」 冷戦構造による戦後世界の環境と、日本の占領政策との関係を考える。朝鮮戦争による経済復興の意味を理解する。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第12回	<p>「『東京裁判』 - 戦犯と訴因から見る戦後体制」 「戦犯」を裁いた「東京裁判」から、占領政策と戦後社会との関係を考える。「東京裁判」の特徴とその性格を学習する。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第13回	<p>「サンフランシスコ講和条約 - 単独講和と『日米安保体制』」 サンフランシスコ講和条約と日本の再軍備の関係を、冷戦下の国際関係の中で考える。日本に対する占領政策と、その転換を学習する。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第14回	<p>「『55年体制』と日米関係 - 現在の政治外交の起点」 国際社会に復帰した日本と、その後に成立した「55年体制」を学習する。戦後の国内政治がどのように開始され、如何に評価すべきかを考える。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第15回	<p>「国際政治と重大転機 - 日本の戦前・戦後」 国際情勢の中を歩んだ日本の近現代史を振り返り、総括を行う。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60



#### 授業の方法

毎時レジュメを配布し、リアクション・ペーパーを提出してもらいます。  
レポート（記述式テスト形式）で成績評価を行います。

#### 成績評価の方法

レポート70%、 リアクション・ペーパー（平常点）30%

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- 1、20世紀の国際秩序と、その転換について理解・説明ができる。
- 2、アジア・太平洋戦争における日本の軍事行動の意味を、国際秩序に関連付けて説明できる。
- 3、日本の敗戦に至る経過と、「ポツダム宣言」の成立過程を理解・説明できる。
- 4、終戦後の占領政策の経過と性格を理解・説明できる。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：近現代日本史A〈1〉・〈2〉、戦後の日本と世界〈3〉

#### テキスト

伊勢弘志・飛矢崎雅也『はじめての日本現代史 - 学校では“時間切れ”の通史』（芙蓉書房出版、2017年）。

#### 参考書

伊勢弘志『石原莞爾の変節と満州事変の錯誤』（芙蓉書房、2015年）。  
吉見義明・横関至編『資料日本現代史』（大月書店、1981年）。  
辻清明・林茂『日本内閣史録』5～6（第一法規出版、1981年）。  
山田朗『日本は過去とどう向き合ってきたか』（高文研、2013年）。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	戦後の日本と世界 <1>		
教員名	富田 武		
科目ナンバー	1401491030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

<b>テーマ・概要</b>			
<p>この講義は、学生の大多数が受験の際に日本史、世界史のいずれを選択しても（政治経済等選択はむろん）、殆んど習ってこなかった第2次世界大戦後の歴史を学び、国際化の時代に相応しい素養の一つを身につけ、併せて専門科目学習のベースを作ってもらいたいことを狙っている。特徴は日本史、世界史（大学では西洋史、東洋史）という区分をせず一体のものとして構成されている点、DVDを用い、映像によって理解をリアルなものにする点である。半期15回の授業では時間が絶対的に不足しており、概説的なものにならざるを得ないが、受講者がこれをステップに戦後史をさらに自分で学習するようになることを望む。</p>			

<b>到達目標</b>			
自分たちの生きている時代を歴史的に、戦後74年の流れの中で理解できるようにする。			

<b>授業の計画と準備学修</b>			
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)	
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	映像学習① 『日本国憲法の誕生』（NHK、2007年）を観る。		
	参考書①雨宮著、②武田著、③吉見著を開講前に読むことが望ましい。	270分	
第2回	日本の敗戦 第2次世界大戦とアジア太平洋戦争を総括し、日本敗戦の過程（ポツダム宣言から受諾まで）と結果（領土喪失、引揚等）を概観し、占領をめぐる内外の力学を理解する。		
	テキスト石川1及び中村1-1を読む。	60分	
第3回	占領下改革と新憲法 占領統治の仕組み、GHQ主導下で行われた非軍事化と民主化の諸改革を学習する。日本国憲法制定過程を米国と吉田首相の意図、世論の動向に即して理解し、「押しつけ」だったか否かを考える。		
	石川2～3及び中村1-2を読む。	60分	

第4回	戦後復興と朝鮮戦争 政党政治の復活、経済復興の諸政策とGHQの強力な指導を概観する。国際情勢の冷戦への移行、これに伴う占領政策の転換、朝鮮戦争とその日本の経済・政治に与えた影響を理解する。	
	石川4～7及び中村1-3～5を読む。	60分
第5回	日本の独立と55年体制成立 サンフランシスコ講和会議をめぐる国内世論、同条約と日米安全保障条約の内容を把握する。55年体制の成立、自民党による一党優位の内政と日ソ国交回復、国連加盟等の対外関係を理解する。	
	石川8～11及び中村1-6～7を読む。	90分
第6回	映像学習② 安保闘争と高度成長を中心とした映像を観る。	
	できれば映画『Always 三丁目の夕日』を観て人々の暮しぶりを知る。	60分
第7回	安保闘争から高度成長へ 冷戦の緩和という国際情勢の中で日米安保条約が強化され、空前の反対運動が起こったこと、しかし岸退陣後の池田首相が所得倍増制作を掲げて人々の関心を経済と生活に向けたことを理解する。	
	石川12～14及び中村2-1～2を読む。	60分
第8回	ヴェトナム戦争と日本 冷戦下で世界はキューバ危機とヴェトナム戦争という”熱戦”を経験し、日本は同戦争で米国に協力、日韓条約を結び、返還された沖縄の基地を米軍に自由使用させて、中ソと対立したことを理解する。	
	石川15～16及び中村2-4～5を読む。	60分
第9回	高度成長の矛盾と石油危機 高度経済成長が「公害問題」などを伴い、石油危機で終焉し、経済政策の転換が求められたこと、60年代末には先進諸国で学生運動が激発し「新しい社会運動」を生んだことを理解する。	
	中村2-2～3を読む。	60分

第10回	<p>アジアの動向と「田中政治」 70年代初期の欧州デタント（緊張緩和）、アジアの米中・日中和解、末期の新冷戦とイスラム台頭といった国際情勢、日本では田中角栄の政権と「院政」＝利益誘導政治の完成を理解する。</p>	
	<p>石川17～19及び中村3-1～3を読む。</p>	0分
第11回	<p>映像学習③ 80年代日本の「繁栄」と米ソ超大国の対立と改革を観る。</p>	
	<p>とくになし。</p>	60分
第12回	<p>新自由主義と日本の大国化 80年代はサッチャーに始まり米国、西独、日本が経済は新自由主義、政治は保守主義の政策をとり、日米間では経済摩擦の一方、政治的には緊密だったこと、中曽根の「戦後政治の総決算」を理解する。</p>	
	<p>石川21～22及び中村3-4～5を読む。</p>	60分
第13回	<p>ペレストロイカと冷戦終結 ソ連の社会主義体制が内部矛盾と西側との競争圧力に耐えられずに改革に乗り出したこと、言論の自由や民族自決の運動が十分に体制自体を崩壊させたことを理解する。冷戦終結の諸結果も考える。</p>	
	<p>参考書④『ソ連史』第6章を読む。</p>	60分
第14回	<p>バブル崩壊と55年体制崩壊 バブルが崩壊し日本が長期不況に陥ると同時にグローバル化に直面し、政治面では55年体制が崩壊して連立政権時代に入ったこと、北朝鮮問題や慰安婦問題、中国の経済・軍事大国化で日本に排他的ナショナリズムが台頭したことを理解する。</p>	
	<p>石川25～26及び中村4-1～2、4を読む。</p>	90分
第15回	<p>まとめ：「文明の衝突」か「文明の持続」か イスラム過激派のテロ、中東難民の発生と欧州による排斥の動きという「文明の衝突」の一方、地球温暖化やフクシマ原発事故等で「文明の持続」も深刻な問題になっている。それを考えることでまとめとする。</p>	
	<p>とくになし。</p>	60分

#### 授業の方法

時間不足を考慮してレジュメ、補助教材をプリントとして毎回配布する。講義内容をよりよく理解するためには下記テキストの指定部分を予習してくること。なお、教員が自分の体験を交えて語る「余談」も理解を助けるので、耳を傾けてほしい。映像学習の日は感想文を書いてもらう。

#### 成績評価の方法

期末試験を基本とするが、DVDの感想文提出、その内容も成績評価の20%程度を占める。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

最低限の予備知識として、『もういちど読む山川日本史』『もういちど読む山川世界史』を、とくに日本史・世界史ともに未修または一方未修の学生は必ず読んでおくこと。

#### テキスト

- ・石川真澄『戦後政治史 新版』岩波新書、780円 ISBN4-00-430904-2 C0231
- ・中村政則『戦後史』岩波新書、840円 ISBN4-00-430955-7 C0221

#### 参考書

- ①雨宮昭一『占領と改革』岩波新書、700円、ISBN978-4-00-431048-8 C0221
  - ②武田晴人『高度成長』岩波新書、780円、ISBN978-4-00-431049-5 C0221
  - ③吉見俊哉『ポスト戦後社会』岩波新書、700円、ISBN978-4-00-431048-8 C0221
  - ④松戸清裕『ソ連史』ちくま新書、800円、ISBN978-4-480-06638-1 C0222
- このほか、新書を中心にした参考文献リストを3回にわたって配布する。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

簡単な質問は授業終了後に教室で受け付けるが、立ち入った質問や相談はメールまたは名誉教授室で対応する。

科目名	戦後の日本と世界 <2>		
教員名	加藤 祐介		
科目ナンバー	1401491030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要	
<p>テーマ：国際社会のなかの戦後日本            敗戦～現在における日本政治と外交について歴史的に検討する。その際、戦前・戦中・戦後の連続と断絶、自民党政治の構造、戦後外交の特質などについて重点的に講義する。</p>	

到達目標	
<p>①戦後日本の歩みと国際社会の動態について、基礎的な事実関係を理解する。(DP1)            ②受講票への記入を通して、自分の考えを自分の言葉で表現することができる。(DP5)</p>	

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 講義の予定、成績評価の方法などを説明する。	
	(予習) シラバスを読み、講義内容を理解しておく。	10
第2回	敗戦と初期占領改革 非軍事化と民主化を軸とした初期占領政策について理解する。	
	(復習) 講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。	60
第3回	日本国憲法の制定 日本国憲法の制定過程について理解する。	
	(復習) 講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。	60

第4回	<p>象徴天皇の創出と定着 皇室典範の制定過程、および戦前の天皇・皇室制度との連続・断絶について理解する。</p>	
	<p>(復習) 講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。</p>	60
第5回	<p>冷戦の本格化と占領政策の転換 米ソ冷戦の本格化に伴い、占領政策が変容していく過程について理解する。</p>	
	<p>(復習) 講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。</p>	60
第6回	<p>政党政治の復活 占領期の政党の動態について理解する。</p>	
	<p>(復習) 講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。</p>	60
第7回	<p>国際社会への復帰 講和・安保両条約の成立と再軍備について理解する。</p>	
	<p>(復習) 講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。</p>	60
第8回	<p>保革対立と1955年体制の成立 戦後の日本政治を規定していく1955年体制について理解する。</p>	
	<p>(復習) 講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。</p>	60
第9回	<p>対米自立の模索と安保改定 鳩山～岸内閣期の政治過程、安保闘争とその意味などについて理解する。</p>	
	<p>(復習) 講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。</p>	60

第10回	高度経済成長と自民党政治の構造 高度経済成長期における自民党政治の安定と野党の停滞状況について理解する。	
	(復習) 講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。	60
第11回	戦後処理問題の展開 1960～1970年代における対韓国・中国・東南アジア外交および沖縄返還について理解する。	
	(復習) 講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。	60
第12回	ポスト高度経済成長期の自民党政治 高度経済成長終焉後における自民党政治について理解する。	
	(復習) 講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。	60
第13回	政治改革と新自由主義の時代へ 1990年代以降に高唱される政治改革の多様な意味について理解する。	
	(復習) 講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。	60
第14回	冷戦の終焉と日米同盟の再編 冷戦終焉以降における日米同盟の変容について理解する。	
	(復習) 講義で配布したレジュメを復習し、理解を深める。分からない点があれば、その点を明確にした上で講義担当者に質問する。	60
第15回	まとめ 講義のまとめを行う。	
	(復習) 期末試験の準備を行う。	240



#### 授業の方法

配布資料をもとに講義形式で行う。  
毎回受講票を記入してもらい、次回の講義の冒頭において講義担当者が応答を行う。

#### 成績評価の方法

期末試験（70%）、受講票の記入など平常点（30%）

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

#### テキスト

特になし

#### 参考書

老川慶喜『もういちど読む山川日本戦後史』（山川出版社、2016年）  
五百旗頭真編『戦後日本外交史 第三版補訂版』（有斐閣アルマ、2014年）  
その他、必要に応じて紹介します。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	戦後の日本と世界 <3>		
教員名	伊勢 弘志		
科目ナンバー	1401491030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

### テーマ・概要

現代社会をテーマとして、国内政治史と国際情勢（国際政治と現代思想）を中心に講義する。  
 戦後日本がどのような国際環境を進んできたのかを知るために、政治学や現代思想の潮流にも着目し、それらが現在の社会においてもどれほど影響しているのかを考える。  
 また、歴史学で得た「道具としての知識」を実社会で活用するために、「考える力」を訓練できるように「歴史学的思考法」について考える。

### 到達目標

1. 戦後の各時期の世界情勢・国際環境を知り、国際的な視点で現代史を理解する。
2. 「歴史学的思考」とは何かを理解する。
3. 現在の社会問題や国際問題の様々な場面で、歴史的な理解を踏まえた討議ができる。
4. 自ら問いを立て、自己の考えを発信できる。

### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	戦後から見た「戦前」 - 歴史観と視点 戦後史を学習するにあたり、戦後日本における戦前からの連続性と断絶性をそれぞれ理解できるように、国際復帰をした際の日本社会が自らの戦前の歴史をどのように見ていたのかを考察する。	
	シラバスをよく読むこと。 講義計画と課題を確認すること。	60
第2回	「自由」と「勝手」はどう違うか？ - 戦後社会と歴史認識 近代に法概念（法治）が導入された経緯を確認したうえで、日本人の法意識を考える。そこから、国際社会に復帰する条件の一つであった「新憲法」の制定を振り返る。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60
第3回	「安心」と「安全」はどう違うか？ - 「日米安全保障条約」の改定 自由民主党が誕生し、過半数を制する「55年体制」が成立した。「55年体制」の立役者であった岸信介の政権において展開された安保改定問題を学習し、内政・外交それぞれにおける戦前からの連続性を考える。	
	予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。	60

第4回	<p>国家の安全と国民の安全 - 「60年安保」と岸信介政権 自由民主党の成立過程を踏まえた上で、岸信介政権の施政において目指された戦後の対米関係・対アジア関係を確認し、「戦後帝国主義」の内実を迫る。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第5回	<p>「文明」と「文化」は何が違うか？ - 「高度経済成長」と国民生活 戦後復興を遂げた日本の経済規模は戦前の二倍に達した。高度成長は当時までの国際情勢とアメリカの経済戦略とに大きく関わっている。「高度成長」と「キューバ危機」からそうした国際環境を把握する。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第6回	<p>「明治百年」と「近代化論」 - 冷戦下の歴史認識と佐藤栄作内閣 アメリカの経済戦略である「ロストウ路線」と「近代化論」を踏まえて、その戦略において引き起こされたベトナム戦争と、日本への社会的影響を考える。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第7回	<p>「日本列島改造論」と「公共財」 - 高度経済成長の終焉と遺産 世界中に安価な燃料として提供された中東の石油は、中東戦争を背景とした価格操作によって値段を急騰させた。日本にも甚大に影響した石油危機と、高度成長の終焉を学習する。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第8回	<p>「冷戦デタント」とアジア情勢 - 「相互依存」の世界 ベトナム戦争に敗退したアメリカの戦略は、ロストウ路線から転換されたことでアジアへの介入を減少させた。一方、日本はASEAN外交を展開し、アジア諸国との新たな関係を築いていく。理念外交の展開を考える。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第9回	<p>「能力主義社会」は成立するか？ - 「新自由主義」の世界 貿易問題を背景とした日米間の摩擦と、その関係が再編されていく過程を把握し、バブル経済を背景に展開されていく「新自由主義」の思想とその影響を考える。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。 復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60

第10回	<p>「お金」と「歴史学」の話 - 「バブル経済」と「新自由主義」  中曽根康弘政権が採択した経済政策とバブル崩壊の関係性を確認する。第9回に引き続き、バブル経済を背景に展開されていく「新自由主義」の影響を見ながら、格差問題考える。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第11回	<p>「信用と信頼」は何が違うのか？  政治と国民の関係を考えるために、戦前の学校教育と地方自治との関連性を確認し、そこから日本社会における民主主義と選挙制度を考える。社会の規範性と日本型選挙の在り方を考察する。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第12回	<p>「良識と良心」は何が違うのか？  ロシアにおけるペレストロイカ、中国における天安門事件など、社会主義国の民主化傾向を経て冷戦終結に至る潮流を背景に、「55年体制」が崩壊する過程を学習する。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第13回	<p>「愛国心」は必要か？ - ナショナリズムの発生と遠因  世界的潮流としてのグローバリゼーションは、国家の経済政策と国土とを乖離させる「脱国土化」の傾向を有している。こうした脱国土化による地域変容は、同時にナショナリズム的な動きをもたらした。そうした運動傾向と「新自由主義」の関係性を併せて考える。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第14回	<p>「愛国主義教育」の世界観 - 加害と被害の歴史教育・歴史認識  自民党・社会党・新党さきがけの三党連立政権において出された「村山談話」と、日本における戦争責任理論を考える。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60
第15回	<p>「民主主義」の中の「個」／フリーライド&amp;サイレントマジョリティー  バブル崩壊後の政治状況を振り返り、「政党と政治」・「日本型選挙制度」について考える。民主主義の中で現在の私たちに課せられている役割とは何か？について考える。</p> <p>予習：テキストを読んでおくこと。  復習：レジュメを見直しておくこと。</p>	60

#### 授業の方法

毎時レジメを配布し、リアクション・ペーパーを提出してもらいます。  
レポートで成績評定を行います。

授業時には積極的な発言を求めます。そのつもり臨んで下さい。

#### 成績評価の方法

レポート70%、 リアクション・ペーパー（平常点）30%

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- 1、国際情勢の転換点と、その意義を説明できる。
- 2、国際情勢の変化と、その意味を説明できる。
- 3、アメリカの冷戦戦略・経済政策と、日本の外交の関連性を説明できる。
- 4、戦後世界の国際秩序を理解したうえで、日本の戦後史の歩みを説明・評価できる。とりわけ日本が東アジアにあることの意味や影響を歴史的に考えられる。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目：近現代日本史A〈1〉・〈2〉、近現代日本史B〈3〉

#### テキスト

伊勢弘志・飛矢崎雅也『はじめての日本現代史 - 学校では“時間切れ”の通史』（芙蓉書房出版、2017年）。

#### 参考書

吉見義明・横関至編『資料日本現代史』（大月書店、1981年）。  
升味準之輔『現代政治』（東京大学出版、1983年）。  
辻清明・林茂『日本内閣史録』5～6（第一法規出版、1981年）。  
山田朗『日本は過去とどう向き合ってきたか』（高文研、2013年）。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	現代日本の地理 <1>		
教員名	小田 宏信		
科目ナンバー	1201491040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

**テーマ・概要**  
 国際教養科目のコア科目です。国際化や情報化の進展の中で、日本国内の諸地域は大きな変容を強いられてきました。この科目では、経済地理学の成果に基づいて、主に産業活動の側面から、日本の地域システムと諸地域の変貌について考えます。第6回までは人口や産業などの事象毎にその地域的展開と変動について考え、第6回以降は、大都市圏、地方圏の順に、各地域の成り立ちと現代的課題、現代の地域づくりについて考えていきます。

**到達目標**  
 DP1（教養の修得）およびDP3（他者との協働）を実現するため、以下を到達目標とします。  
 グローバル経済の下におかれた、日本の諸産業の地域展開、大都市圏と地方圏の実情について経済地理学の視点から理解し、自地域と他地域の比較の上で今日の地域問題を考察できる。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	グローバル化のなかの地域と経済	
	・テキストの該当章節を読む。	60
第2回	日本の人口集積とその動向	
	・前回の復習。 ・テキストの該当章節を読む。	60
第3回	農業生産の動向	
	・前回の復習。 ・テキストの該当章節を読む。	60

第4回	工業生産の動向	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第5回	流通産業の動向	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第6回	東京大都市地域(1): 首都東京の形成	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第7回	東京大都市地域(2): 京浜(東京)工業地帯	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第8回	東京大都市地域(3): 現代の東京問題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第9回	中京地域: 名古屋の形成と周辺工業地域	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60

第10回	京阪神地域：大阪の成り立ちと経済的再生	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第11回	周辺地域(1) 東北地方：「分工場経済」の問題と東日本大震災	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第12回	周辺地域(2) 四国地方：豊かな風土と過疎問題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第13回	周辺地域(3) 沖縄地方：経済的自立を考える	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第14回	田園回帰の時代	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> </ul>	60
第15回	経済地域政策の動向と展望	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60



#### 授業の方法

テキストに極力準拠し、その内容に肉付けしつつ、配布資料を適宜参照して講義形式で進めます。写真教材やビデオ教材も用います。なお、欠席の場合も配布資料は原則として取り置きしません。

#### 成績評価の方法

平常点30%、期末試験70%。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、達成度により評価する。

- (1) 日本の経済地域を空間的なシステムとして理解できているか。
- (2) 日本の主要産業部門の地域的展開についての基礎的事項を理解できているか。
- (3) 国際的大競争の下で日本の諸地域が抱える諸問題と対応について理解できているか。
- (4) 基本的な地域統計・統計地図を読み取って考察することができるか。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本の諸地域や東京が抱える諸問題について、ある程度の問題意識を持っていることが望ましい。

関連科目として、教養カリの「現代世界の地理」「地域理解トピックス（地域づくりの時代）」「地域理解トピックス（地元学実践演習）」など。

#### テキスト

『日本経済地理読本〔第9版〕』竹内淳彦・小田宏信編、東洋経済新報社、2484円、ISBN978-4-492-10031-8

【必ず第9版を準備してください】

#### 参考書

適宜、紹介します。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	現代日本の地理 <2>		
教員名	小田 宏信		
科目ナンバー	1201491040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

**テーマ・概要**

国際教養科目のコア科目です。国際化や情報化の進展の中で、日本国内の諸地域は大きな変容を強いられてきました。この科目では、経済地理学の成果に基づいて、主に産業活動の側面から、日本の地域システムと諸地域の変貌について考えます。第6回までは人口や産業などの事象毎にその地域的展開と変動について考え、第6回以降は、大都市圏、地方圏の順に、各地域の成り立ちと現代的課題、現代の地域づくりについて考えていきます。

**到達目標**

DP1（教養の修得）およびDP3（他者との協働）を実現するため、以下を到達目標とします。  
グローバル経済の下におかれた、日本の諸産業の地域展開、大都市圏と地方圏の実情について経済地理学の視点から理解し、自地域と他地域の比較の上で今日の地域問題を考察できる。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	グローバル化のなかの地域と経済	
	・テキストの該当章節を読む。	60
第2回	日本の人口集積とその動向	
	・前回の復習。 ・テキストの該当章節を読む。	60
第3回	農業生産の動向	
	・前回の復習。 ・テキストの該当章節を読む。	60

第4回	工業生産の動向	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第5回	流通産業の動向	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第6回	東京大都市地域(1):首都東京の形成	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第7回	東京大都市地域(2):京浜(東京)工業地帯	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第8回	東京大都市地域(3):現代の東京問題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第9回	中京地域:名古屋の形成と周辺工業地域	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の復習。</li> <li>・ テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60

第10回	京阪神地域：大阪の成り立ちと経済的再生	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の復習。</li> <li>・テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第11回	周辺地域(1) 東北地方：「分工場経済」の問題と東日本大震災	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の復習。</li> <li>・テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第12回	周辺地域(2) 四国地方：豊かな風土と過疎問題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の復習。</li> <li>・テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第13回	周辺地域(3) 沖縄地方：経済的自立を考える	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の復習。</li> <li>・テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60
第14回	田園回帰の時代	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の復習。</li> </ul>	60
第15回	経済地域政策の動向と展望	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の復習。</li> <li>・テキストの該当章節を読む。</li> </ul>	60

#### 授業の方法

テキストに極力準拠し、その内容に肉付けしつつ、配布資料を適宜参照して講義形式で進めます。写真教材やビデオ教材も用います。なお、欠席の場合も配布資料は原則として置き置きしません。

#### 成績評価の方法

平常点30%、期末試験70%。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、達成度により評価する。

- (1) 日本の経済地域を空間的なシステムとして理解できているか。
- (2) 日本の主要産業部門の地域的展開についての基礎的事項を理解できているか。
- (3) 国際的大競争の下で日本の諸地域が抱える諸問題と対応について理解できているか。
- (4) 基本的な地域統計・統計地図を読み取って考察することができるか。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本の諸地域や東京が抱える諸問題について、ある程度の問題意識を持っていることが望ましい。

関連科目として、教養カリの「現代世界の地理」「地域理解トピックス（地域づくりの時代）」「地域理解トピックス（地元学実践演習）」など。

#### テキスト

『日本経済地理読本〔第9版〕』竹内淳彦・小田宏信編、東洋経済新報社、2484円、ISBN978-4-492-10031-8

【必ず第9版を準備してください】

#### 参考書

適宜、紹介します。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	現代世界の地理 <1>		
教員名	伊藤 修一		
科目ナンバー	1201491050	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

### テーマ・概要

人口や経済、社会、環境といった地域にかかわる今日的な諸課題の理解には、その一地域だけではなく、グローバルな影響も考慮することも必要となっている。また、世界各地で生じている類似した課題でもその要因や過程には共通点とともに差異があり、これらは地理（学）的な視点からの理解が不可欠である。

この授業ではおもに、地球規模あるいは国際的な諸課題や、グローバルな現象・活動とローカルな地域との間の相互作用を、地理（学）的な視点からとらえる方法を学修して、考察する力を講義を通じて養成してもらう。

### 到達目標

DP1（教養の修得）、3（他者との協働）、5（表現力、発信力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。

- ①地図や統計図表の解釈によって、世界スケールにおける地理的多様性の特徴を読み取ることができる。
- ②地理的現象が生じる背景やメカニズムについての理解を深める。
- ③特定の地域でみられる地理的現象について、その特徴や問題点を具体的に説明・指摘できる。

### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	ガイダンス ・授業全体を通じての目標、進め方、予習復習、評価方法などに関して説明する。	
	【予習・復習】シラバスを熟読し、授業内容や授業の進め方などについて理解する。	60
第2回	人口増加と可住地の拡大 ・世界人口の推移を確認したうえで、その推移の背景や、人口分布とその地域差の空間的特徴などについて学修する。	
	【予習】「世界人口推計」などの資料により、世界人口の推計値を確認する。 【復習】世界人口の分布傾向と地域差の背景を人口学的視点から説明できるようにする。	60
第3回	食料生産と異常気象 ・農業や食料自給率の地域的傾向を確認したうえで、安定的な食料生産に影響を与える気候とその変動に伴う問題点などについて学修する。	
	【予習】世界人口の変動要因や分布傾向について整理する。 【復習】主要農産物の産地分布と異常気象発生地域の関係を確認し、その問題を具体的に説明できるようにする。	60

第4回	食品・消費財で考える生産・流通のグローバル連鎖 ・食品・消費財の生産から消費に至る一連のプロセスの地球規模の展開について概観して、今日の地域人口との関係や問題点などを学修する。	
	【予習】食料増産と人口増加の一般的な関係を確認する。 【復習】フードチェーンの役割と空間的展開の特徴、展開にともなう地域への影響について具体的に説明できるようにする。	60
第5回	多国籍企業の展開とグローバル社会の到来 ・多国籍企業の登場の背景と展開、地域への影響について学修する。	
	【予習】フードチェーンの空間的特徴について整理する。 【復習】現代における多国籍企業の役割やその活動に伴う地域社会の変化について具体的に説明できるようにする。	60
第6回	世界の経済格差と階層化 ・世界の国・地域の所得などの経済格差の傾向を捉えたうえで、格差の形成過程とその背景、課題などについて学修する。	
	【予習】地図帳等で「国別の1人当たり国民総所得」の分布の特徴を確認しておく。 【復習】グローバルな経済活動と世界規模で生じる地域の序列化との関係を簡潔に説明できるようにする。	60
第7回	先進諸国の脱工業化とその前夜 ・近年の世界各国の産業構造の特徴を概観したうえで、先進諸国が今日の産業構造を有する直前状況やその過程、背景などについて学修する。	
	【予習】世界規模で生じる地域の序列化や先進諸国の人口構造の特徴を整理する。 【復習】先進諸国の脱工業化の特徴とそれに至る背景について具体的に説明できるようにする。	60
第8回	先進諸国の脱工業化と地域再生 ・近年先進諸国が経験してきた産業構造の一般的な変容に伴う、地域の経済や建造環境の変化の過程などを学修する。	
	【予習】先進諸国の脱工業化の特徴について整理する。 【復習】先進諸国の脱工業化に伴う地域の再生の特徴や過程を具体的に説明できるようにする。	60
第9回	経済の金融化とグローバルシティの諸問題 ・グローバル経済の発展にともない、重要性が増してくる国際金融の地理的展開の特徴や金融システムの不安定化による地域への影響などについて学修する。	
	【予習】先進諸国の産業構造の特徴について整理する。 【復習】国際金融システムの地理的展開の特徴と問題点について具体的に説明できるようにする。	60

第10回	グローバルシティのモザイクと多文化共生 ・近年先進諸国が経験してきた産業構造の一般的な変容に伴う、都市社会空間の変化や課題について学修する。	
	【予習】先進諸国の脱工業化の特徴と、それに伴う地域の再生について整理する。 【復習】グローバルシティ形成にかかわる、流入する外国人の役割や、彼らの社会的位置について具体的に説明できるようにする。	60
第11回	グローバル化と民族対立の諸相 ・民族の意味とその分布の特徴を確認したうえで、グローバル化に伴って変化する経済格差と結びついた民族的な対立の特徴について学修する。	
	【予習】グローバルシティ形成における、流入する外国人の役割や、彼らの社会的位置について整理する。 【復習】国際人口移動と民族対立との関係や現代の民族対立の背景について具体的に説明できるようにする。	60
第12回	リスク社会の空間的な現れ ・科学技術の進展にもなって高まる現代的なリスクの意味と特性を確認したうえで、グローバルな経済活動における地域リスクやリスク受容の地域差などについて学修する。	
	【予習】辞書等で「リスク」の意味を確認する。 【復習】リスクへの関心が高まる背景と、リスクと地域との関係を簡潔に説明できるようにする。	60
第13回	グローバル化の進行と周辺地域・半周辺地域の成立 ・グローバル経済の影響をうけ、貧困をはじめとする農村地域などが抱える構造的問題とその克服に向かう地域の特徴について学修する。	
	【予習】先進諸国の脱工業化の特徴について整理する。 【復習】先進諸国との関係を意識して、特定地域が周辺・半周辺に位置づけられる背景を簡潔に説明できるようにする。	60
第14回	周辺地域の農村問題 ・グローバル経済の影響をうけ、貧困をはじめとする農村地域が抱える構造的問題とその克服について学修する。	
	【予習】周辺地域の意味を確認する。 【復習】グローバル経済の進展と農村問題との関係を具体的に説明できるようにする。	60
第15回	到達度の確認・質疑応答 ・これまでの学修内容に関する到達度を確認するためのテストにとり組む。	
	【予習】ノートや配布資料、地図帳を読み込み、活用して地域を説明できるようにしておく。	60



### 授業の方法

- ・ 授業は講義形式で行われる。基本的にはプロジェクターを使用し、配布資料とあわせて授業内容の理解を促す。
- ・ 配布資料は授業後にPortalから印刷できるようにする予定なので、授業中に入手できなかった場合は各自で印刷して入手すること。
- ・ 授業では折に触れて小テストの時間を設けて、前回までの授業内容の理解度や関心の深さを測る。解答解説は原則としてその次の回で行う。
- ・ 小テストはPortalを通じて実施する予定なので、スマートフォンなどの情報端末を持参すること。
- ・ 授業の進捗状況や受講者の関心などにより、内容や計画の順番を変更することがある。

### 成績評価の方法

到達度を確認するためのテストの成果（1回：80%）と、小テスト（10回程度：20%）から総合的に評価する。

### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

とくに次の点に着目し、その到達度により評価する。

- ① 地図や統計図表を読んで、地理的現象・諸課題の特徴を具体的に指摘できる。
- ② グローバルな地理的現象・諸課題が生じる一般的な原因と過程を具体的に説明できる。
- ③ 特定の地域で生じる現象・課題を、地域的特性とともに、グローバル化との関係も考慮して具体的に説明・指摘できる。

### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

日頃からニュースに注目して、世界情勢に関する理解を深め、関心を高めるように努めること。その際には地域の名称と位置を、中学校あるいは高校で用いた地図帳で確認しておくこと。「現代日本の地理」を先に履修することで、現代世界の諸課題の意味や重要性をより深く理解できるはずである。

### テキスト

中学校や高校で用いた地図帳

### 参考書

- 『経済地理学：キーコンセプト』、青山裕子・J.T. マーフィー・S. ハンソン著、小田宏信ほか訳、古今書院、3,000円（税別）、ISBN4772231572
- 『世界システムという考え方―批判的入門』、山田信行、世界思想社、2,400円（税込）、ISBN4790715726
- 『都市社会地理学』、P. ノックス・S. ピンチ著、川口太郎・神谷浩夫・中澤高志訳、古今書院、7,500円（税別）、ISBN4772252669

### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で、あるいは随時電子メールで受け付ける。

科目名	現代世界の地理 <2>		
教員名	加賀美 雅弘		
科目ナンバー	1201491050	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

<b>テーマ・概要</b>			
<p>「食からみたヨーロッパの文化と社会」          ヨーロッパ固有の食文化の形成過程を、①自然環境に適応した農業、②近代化と社会構造の変化、③工業化、の3点に着目し、地域の変化と関連づけながら考察する。今日あるヨーロッパの食文化がいかに多様な要因によって形成されてきたかを学習し、ヨーロッパ特有の社会を理解することにつなげる。なお、必要に応じて、日本との違いにもあわせて追及する。</p>			

<b>到達目標</b>			
<p>ヨーロッパの食文化に着目し、食を規定する地域的要因として、自然環境と農業、社会構造、近代化との関係に注目して論じ、地域の歴史的発展の経緯を踏まえながらヨーロッパ社会を論じる視角を学習する。</p>			

<b>授業の計画と準備学修</b>			
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)	
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	オリエンテーション：授業内容の説明とヨーロッパ理解度のチェック		
	【予習】ヨーロッパの地図を見て、国の位置を解しておく。 【復習】ヨーロッパの国名など地図を使った理解を深める。	60	
第2回	地理的スケールでとらえる食文化：食からみる世界の地域差		
	【予・復習】世界の自然環境と農業・食文化の関係に関する参考文献を読み、知識を蓄える。	80	
第3回	自然環境と結びついたヨーロッパの食文化：農業で異なるローカルな食文化		
	【予・復習】ヨーロッパの自然環境に関する参考文献を読み、知識を蓄える。	80	

第4回	自然環境と結びついたヨーロッパの食文化：北西ヨーロッパの食（豚肉と牛乳）	
	【予習・復習】ヨーロッパの食文化についての参考文献を読み、知識を蓄える。	80
第5回	外来作物が変えたヨーロッパの食文化：貧困層の食（トムロコシとペラグラ）	
	【予・復習】ヨーロッパの貧困層に関する参考文献を読み、知識を蓄える。	80
第6回	外来作物が変えたヨーロッパの食文化：貧困層の食（ジャガイモと飢饉）	
	【予習・復習】ジャガイモの歴史についての参考文献を読み、知識を蓄える。	100
第7回	外来作物が変えたヨーロッパの食文化：近代化と都市文化	
	【予習・復習】ヨーロッパの近代化に関する参考文献を読み、知識を蓄える。	100
第8回	外来作物が変えたヨーロッパの食文化：富裕層の食（ステイタスシンボルとしての砂糖）	
	【予習・復習】砂糖の歴史に関する参考文献を読み、知識を蓄える。	100
第9回	外来作物が変えたヨーロッパの食文化：富裕層の食（市民社会におけるコーヒー）	
	【予習・復習】コーヒーの歴史に関する参考文献を読み、知識を蓄える。	100

第10回	近代化で変わった食文化：モダンな食（グルメとしての水）	
	【予習・復習】近代化と富裕層に関する参考文献を読み，知識を蓄える。	100
第11回	近代化で変わった食文化：ステイタスある食（保養地の暮らし）	
	【予習・復習】余暇の誕生に関する参考文献を読み，知識を蓄える。	100
第12回	工業化で変わったヨーロッパの食文化：工場で作られる食（グルメでなくなったチョコレート）	
	【予習・復習】チョコレートの歴史に関する参考文献を読み，知識を蓄える。	100
第13回	工業化で変わったヨーロッパの食文化：工場で作られる食（匂のない酒・ビール）	
	【予習・復習】ビールの歴史と食の工業化に関する参考文献を読み，知識を蓄える。	100
第14回	ヨーロッパの格差社会と食・栄養の地域差	
	【予習・復習】食の多様性，不平等に関する参考文献を読み，知識を蓄える。	100
第15回	まとめ（試験を含む）	
	【予習】授業内容を整理し，ヨーロッパ社会に関する理解を進める。	150

#### 授業の方法

授業は講義形式で行われる。基本的にはパワーポイントを使用し、配布プリントとあわせて講義内容の理解をはかる。また、毎時間に課すリアクションペーパーで学習内容の理解度を確認する。

#### 成績評価の方法

学期末試験：40%、授業中に課すリアクションペーパーの内容：60%

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

以下の点について、その達成度により評価する。

- ①ヨーロッパの自然環境と農業・食の関係を理解している。
- ②ヨーロッパの世界進出と食との関係を理解している。
- ③近代化によってヨーロッパがいかに変化したかを理解している。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

ヨーロッパの国名と地名について、地図帳を利用して把握しておく。

#### テキスト

最初の授業で指示する。

#### 参考書

授業中に適宜紹介する。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

基本的に、リアクションペーパーに書かれたすべての質問に対して電子メールで対応する。

科目名	国際教養総合講義（国際文化交流論）		
教員名	久保 和朗		
科目ナンバー	1401495030	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 後期

### テーマ・概要

本科目では、グローバル化が進展する一方で自国中心主義が強まる昨今の世界情勢のなかで、国際文化交流はいかにあるべきかを追究する。  
 本講義では、日本の代表的国際文化交流実施機関である国際交流基金における実務経験に基づき、国際文化交流の歴史的展開と現状、ジャンルや担い手別の特徴などを広く紹介するとともに、具体的事業例を参考に、交流の目的、実施上の留意点、評価など、文化交流の要点を詳しく検討する。その過程で、文化の本質について幅広く考察するとともに、外交や「国益」との関係などを考える。

### 到達目標

- ①価値観の形成における文化の役割を理解する。
- ②文化の特質について基礎的理解を得る。
- ③多様な文化に関する幅広い知識を習得する。
- ④国際文化交流実施上の留意点を理解する。
- ⑤国際文化交流の意義と評価に関する見識を養う。

### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	準備学修(予習・復習等)	
	序論（「国際文化交流」とは何か） ・講義の概要説明と受講者の関心調査 ・「国際文化交流」とは何かにつき類似概念を整理する	
	シラバスを通読し、国際文化交流全般にかかる各自の問題意識を整理しておく。 （「国際交流」、「国際協力」、「文化交流」、「異文化理解」などの関係について考えておく）。 （最初の授業で「資料集」を配布するので、以後次回の部分に目を通し予習しておく）。	60
第2回	文化とは何か（1） ・文化の定義、概念について考察する ①人間の生活様式の全体（広義） ②哲学、芸術、科学、宗教などの精神的活動、およびその所産（狭義）	
	「文化」という言葉の辞書の定義を理解したうえで、同じ言葉が日常どのように使われているかを考えておく	60
第3回	文化とは何か（2） ・文化の特質を考察する 広義の「文化」には次のような一見矛盾した性質が見られる。 ①さまざまな独立的要素から成っているが、それらの全体システムが一つの文化である。□ ②集団内で保持・継承されるが、独自の人格をもった個々人により実践される。 ③異質の文化とは二律背反的であるが、融合性がある。 ④形式そのものではないが、形式に依存するところが大きい。□ ⑤保守的傾向があり形骸化しやすい面があるが、固定化せず漸進的に変容する。□ ⑥通常は無意識的に思考や行動を律するが、強度に意識化されることがある。	
	文化が内包する矛盾的側面につき、具体的な例を考えておく	60
第4回	文化とは何か（3） ・文化の接触で何が生じるかを考察する ・文化相対主義について学ぶ	
	文化の諸側面に留意し、複数の文化が接触する時に生じうる具体例を考えておく	60

第5回	国際文化交流の目的 ・国際文化交流の目的につき、全体像を把握する	
	国際文化交流の様々な目的を整理しておく	60
第6回	国際主義と現実 ・国際主義とは何かを考える ・国境の実際を見る	
	世界と国家との関係について、理想と現実との両側面から考えをまとめてみる	60
第7回	国際文化交流の歴史 ・遣隋使、遣唐使から21世紀まで、日本の文化交流の歴史を振り返る ・日本文化史を通覧する	
	日本が外国との接触により、どのような文化的影響を受けてきたか、また、どのような影響を与えつつあるか考えておく	60
第8回	新しい国際文化交流 ・国際交流基金設立の背景をレビューする。 ・文化交流の担い手の多様化を見る ・諸外国の国際文化交流機関に関する知識を得る	
	国際文化交流の国別、担い手別による目的・手法などの違いを考えておく	60
第9回	国際文化交流の手法（1）人的交流 ・人的交流の意味を考える ・人的交流の現状と課題	
	日本と外国の懸け橋になった人物などについて具体的な知識を得、文化交流における個人の役割について考えておく	60
第10回	国際文化交流の手法段（2）芸術交流 ・芸術交流の意味を考える ・芸術交流の現状と課題	
	芸術は国境を越えるか、などにつき考えをまとめておく	60

第11回	文化交流の手法段（3）固有文化の紹介 ・日本紹介の意味を考える ・日本紹介の現状と課題	
	日本文化の特質について考え、外国に日本文化を紹介する上での注意点を考えておく	60
第12回	文化交流の手法段（4）言語普及 ・言語普及の意味を考える ・日本語教育の現状と課題	
	言語と異文化理解の関係につき考察し、言語普及の意味と普及の手法について考えをまとめておく	60
第13回	文化交流の手法段（5）知的交流 ・日本研究の歴史と意義を確認する ・世界規模問題（グローバル・イシュー）と文化の関係	
	①地域研究の基礎につき知識を得、いわゆる「日本論」・「日本人論」について考えておく ②世界的課題とは何かにつき考えを整理し、文化との関連を考察しておく	60
第14回	国際文化交流の評価と展望（まとめ） ・国際文化交流の課題は何か ・国益や外交との関係はいかにあるべきか	
	国際文化交流はどうあるべきか、これまでの講義を振り返り各自の意見を整理してみる	60
第15回	多様な世界 ・世界の国々に関する知識を広める	
	世界についての関心を高めておく	60



#### 授業の方法

- ・ 授業は講義形式で行うが、状況に応じて質疑応答ないしは討論を歓迎する。国際文化交流は実践的な意味が強いため、講義を聞くだけでなく自由に考えを発表する意欲を持ってもらいたい。
- ・ 授業ごとに質問や意見を書いたレスポンス・ペーパーの提出を奨励し、可能な限り次の回にフィードバックを行う。
- ・ 画像や表のプロジェクトを多用し、感覚的な理解を助ける。
- ・ 授業の進捗により、内容を一部変更することがある。

#### 成績評価の方法

期末レポート（50%）、授業への取り組み（50%）授業中の質問・発表等、積極的関与があれば適宜加点する。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

- ・ 日本の歴史、文化、世界情勢、外国文化などに関する広範で偏らない知識を要する。

#### テキスト

- ・ 最初の授業で、全15回分を網羅した「資料集」を配布する。ほかに必要な文献資料はその都度用意する。
- 書籍については、授業の進展に合わせてその都度紹介する。

#### 参考書

- ・ 必要に応じ、授業中に適宜言及する。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

- ・ 授業中の質問を歓迎する。授業中に対応できない場合は授業終了後に受け付ける。必要な場合、メールで補足的に受け付ける。

科目名	国際教養総合講義（保守主義とリベラルの思想的対立からみたアメリカ政治）		
教員名	中岡 望		
科目ナンバー	1401495020	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

### テーマ・概要

アメリカの政治は建国以来、国家の果たす役割を巡り、常に思想的、政治的対立が起こってきた。政府が積極的に経済や社会問題にかかわるべきだと主張するリベラル思想と、政府の拡大は個人の自由を侵害することになると小さな政府を主張する保守思想である。また最近の政治情勢は、トランプ大統領の誕生によってポピュリズム思想が影響力を持ち始めている。こうした思想的展開を軸に現代アメリカ政治を説明する。  
【実務経験】 ジャーナリストとしてアメリカ政治に関する執筆を行っており、その経験に基づく実践的な知識を提供する

### 到達目標

アメリカ政治を時事的な観点で理解するだけでなく、その背後にある歴史的、政治的な状況を踏まえながら、アメリカ政治と社会に対する理解を深め、さらに今後の民主主義政治の動向を議論できる知識を身に付けることを目標とする。アメリカの政治思想の理解を日本の政治状況と比較検討する基盤を獲得することを、2つ目の目標とする。

### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	授業計画と進め方、受講生の授業参加の仕方を説明する。	
	資料を配布し、事前に読んで置くこと	1時間
第2回	アメリカ革命の思想的背景。欧州の啓蒙主義と独立宣言。ジョン・ロックからトーマス・ペイン、ジェファースンの独立宣言の共通性	
	各テーマに関する資料を事前に配布するので、それを読んでおくこと。授業中にできるだけ質問を行えるように準備すること	1時間
第3回	連合規約から憲法会議に至る政治対立。未完成の国家体制	
	各テーマに関する資料を事前に配布するので、それを読んでおくこと	1時間

第4回	ハミルトンのフェデラリスト派とジェファーソンの反フェデラリスト派の対立。中央銀行設立を巡る争い。金融資本・商業資本と南部農業、中小企業の対立	
	各テーマに関する資料を事前に配布するので、それを読んでおくこと	1時間
第5回	1800年の大統領選挙と2代政党制の確立。1804年の第2次米英戦争。民主党と共和党の確立	
	各テーマに関する資料を事前に配布するので、それを読んでおくこと	1時間
第6回	奴隷制度を巡る思想的、宗教的対立から、南北戦争への展開	
	各テーマに関する資料を事前に配布するので、それを読んでおくこと	1時間
第7回	南北戦争後の南部復興。奴隷制度廃止から黒人差別への展開	
	各テーマに関する資料を事前に配布するので、それを読んでおくこと	1時間
第8回	産業革命で変わるアメリカの社会、政治構造の変化。貧富の格差拡大、労働者階級の形成、移民の急増に伴う社会的な軋轢	
	各テーマに関する資料を事前に配布するので、それを読んでおくこと	1時間
第9回	進歩主義とポピュリズムの時代。セオドーア・ルーズベルト大統領とウッドロー・ウィルソン大統領の進歩主義政策	
	各テーマに関する資料を事前に配布するので、それを読んでおくこと	1時間

第10回	第1次世界大戦後のアメリカ社会。共和党の復権と大恐慌への道	
	各テーマに関する資料を事前に配布するので、それを読んでおくこと	1時間
第11回	フランクリン・ルーズベルト大統領のニューディール政策とアメリカ社会の変貌。ニューディール・リベラリズムの登場	
	各テーマに関する資料を事前に配布するので、それを読んでおくこと	1時間
第12回	反共主義と宗教的倫理観に基づく戦後保守主義の誕生。保守主義対リベラリズムの対立の時代	
	各テーマに関する資料を事前に配布するので、それを読んでおくこと	1時間
第13回	レーガン革命による保守主義思想の拡大。リベラリズムの後退。	
	各テーマに関する資料を事前に配布するので、それを読んでおくこと	1時間
第14回	クリントン政権、オバマ政権の思想的意味。大きな政府の時代の終焉	
	各テーマに関する資料を事前に配布するので、それを読んでおくこと	1時間
第15回	トランプ大統領誕生の背景とポピュリズムの台頭、反国際主義の系譜。	
	各テーマに関する資料を事前に配布するので、それを読んでおくこと	1時間

#### 授業の方法

基本的に教師が授業を行う。その過程で学生に質問したり、各テーマに関する議論を行う。可能な限り英語の原文資料を読むようにする

#### 成績評価の方法

毎回、授業後に提出するリアクション・ペーパーを含め、レポート提出、期末試験で成績を評価する。評価に際して出席状況を重視する

#### 成績評価の基準

授業中に提出するレポート：20%  
リアクション・ペーパー評価：20%  
期末試験：60%

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

特に予備知識を必要としない。アメリカの歴史や政治に関する十分な知識がなくても、全体を理解できるように授業を行う

#### テキスト

「American Political History—A Very Short Introduction」(Donald T. Critchlow, Oxford University, 2015)  
「アメリカ保守革命」(中岡望、中公新書)＝コピーを授業中に配布する

#### 参考書

授業中にテーマに関する参考書を指示する

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	国際教養総合講義（世界経済と国際金融）		
教員名	篠山 善行		
科目ナンバー	1001495040	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2019年度 前期

#### テーマ・概要

1. 国際協力銀行での30年にわたる実務経験を活かし、国際金融の本質及び事例を解説します。
2. 世界経済の現状や日本企業の海外での活躍について学びます。
3. 海外関連の仕事に関心ある受講生に対し、就職へのイメージやガイダンスを与えます。

#### 到達目標

1. 世界経済についての理解を深め、自分の意見を言えるようになること。
2. (国際)金融の本質を理解し、自分で説明できるようになること。

#### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	初回ガイダンス。講義の目的や内容について説明する。また、受講生の関心を確認するためのアンケートを行う。	
	講義テーマに関する関心事項のとりまとめ。	60分
第2回	国際金融を学ぼう① (「お金を貸すとはどういうことか」から始めて、国際金融の仕組み、実例について学ぶ。また、世界銀行やAIIBについて紹介する。)	
	第1回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。	60分
第3回	国際金融を学ぼう② (「お金を貸すとはどういうことか」から始めて、国際金融の仕組み、実例について学ぶ。また、世界銀行やAIIBについて紹介する。)	
	第2回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。	60分

第4回	国際金融を学ぼう③ （「お金を貸すとはどういうことか」から始めて、国際金融の仕組み、実例について学ぶ。また、世界銀行やAIIBについて紹介する。）	
	第3回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。	60分
第5回	国際金融を学ぼう④ （「お金を貸すとはどういうことか」から始めて、国際金融の仕組み、実例について学ぶ。また、世界銀行やAIIBについて紹介する。）	
	第4回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。	60分
第6回	国際金融を学ぼう⑤ （「お金を貸すとはどういうことか」から始めて、国際金融の仕組み、実例について学ぶ。また、世界銀行やAIIBについて紹介する。）	
	第5回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。	60分
第7回	国際金融を学ぼう⑥ （「お金を貸すとはどういうことか」から始めて、国際金融の仕組み、実例について学ぶ。また、世界銀行やAIIBについて紹介する。）	
	第6回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。	60分
第8回	世界経済を考えよう① （トランプ大統領、英国のEU離脱、反グローバリズム、北朝鮮問題、インフラ開発、資源市場などを通じて世界経済の潮流を理解する。）	
	第7回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。	60分
第9回	世界経済を考えよう② （トランプ大統領、英国のEU離脱、反グローバリズム、北朝鮮問題、インフラ開発、資源市場などを通じて世界経済の潮流を理解する。）	
	第9回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。	60分

第10回	世界経済を考えよう③ (トランプ大統領、英国のEU離脱、反グローバリズム、北朝鮮問題、インフラ開発、資源市場などを通じて世界経済の潮流を理解する。)	
	第10回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。	60分
第11回	世界経済を考えよう④ (トランプ大統領、英国のEU離脱、反グローバリズム、北朝鮮問題、インフラ開発、資源市場などを通じて世界経済の潮流を理解する。)	
	第11回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。	60分
第12回	世界経済を考えよう⑤ (トランプ大統領、英国のEU離脱、反グローバリズム、北朝鮮問題、インフラ開発、資源市場などを通じて世界経済の潮流を理解する。)	
	第12講義の復習及び関連事項に関する自己学習。	60分
第13回	世界経済を考えよう⑥ (トランプ大統領、英国のEU離脱、反グローバリズム、北朝鮮問題、インフラ開発、資源市場などを通じて世界経済の潮流を理解する。)	
	第13回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。	60分
第14回	世界経済を考えよう⑦ (トランプ大統領、英国のEU離脱、反グローバリズム、北朝鮮問題、インフラ開発、資源市場などを通じて世界経済の潮流を理解する。)	
	第14回講義の復習及び関連事項に関する自己学習。	60分
第15回	期末試験及び問題解説	
	全講義の復習及び試験準備。	60分



#### 授業の方法

パワーポイントなどを用いて講義形式で行う。講義中、受講生との質疑応答をたくさん行う。また、ミニテストやアンケートを時々行う。

#### 成績評価の方法

第15回講義にて行う期末試験及び各講義における理解度・貢献度（ミニテストやアンケートの回答数及び回答内容、講義中の発言の回数や内容）によって評価を行う。評価点の配分は、期末試験が50%、各講義における理解度・貢献度が50%。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

なし。

#### テキスト

なし。講師が講義資料を毎回用意する。

#### 参考書

なし。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	近現代アジア史 A <1>		
教員名	久保 茉莉子		
科目ナンバー	1201496010	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

**テーマ・概要**

19世紀以降、中国、日本、その他アジア各国は、欧米諸国の影響を大いに受けながら、近代国家建設の努力を続けた。この背景には、欧米諸国の積極的なアジア進出、アジア諸国における既存の統治システムの動揺など、複数の要因が複雑に絡み合う状況が存在した。もともと独自の制度や文化を有し、一定程度安定的な統治を行っていたアジアの国々は、なぜ、「近代化」「欧米化」を急速に進める道を選んだのか。それは何をもたらしたのか。

本講義では、19世紀～20世紀初年の中国を中心としながら、アジアにおける「近代化」「欧米化」について、様々な角度から見つめていくことで、その歴史的意味を問い直すこととする。

**到達目標**

DP1（教養の修得）を実現するため、次の3点を到達目標とする。

- ①19～20世紀の国際情勢の変化がアジア諸国に及ぼした影響を理解する。
- ②清朝や中華民国が進めた近代国家建設の試みの歴史的意味を説明できるようにする。
- ③数十年単位で日本や中国を含むアジアの歴史を理解する視点を養う。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	<b>授業ガイダンス</b> ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・アジア近現代史を学ぶ意味を考える。	
	予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習：授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	30
第2回	<b>清朝の統治構造と対外関係</b> 19世紀以降のアジア諸国における変・不変を理解するための前提として、清朝の統治システムや周辺諸国との関係を確認する。	
	予習：テキスト①2～38頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第3回	<b>西洋諸国のアジア進出と中国社会の変容</b> アヘン戦争が勃発するまでの経緯や中国各地で内乱が起きた背景、清朝の対応策について学ぶ。	
	予習：テキスト①38～88頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60

第4回	第二次アヘン戦争と清朝の対外政策の転換 第二次アヘン戦争勃発の背景と、アジア諸国における近代外交の形成過程を理解する。	
	予習：テキスト①91～98頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第5回	新たな知識の受容と普及 19世紀半ば以降に中国で外国語学習や洋書の翻訳が推進されたことの歴史的意味を考える。	
	予習：テキスト①99～107頁および②26～40頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第6回	欧米文化の流入と伝統文化への影響 ・西洋諸国のアジア進出が中国社会に及ぼした影響を考える。 ・第5回までの授業内容について確認する。	
	予習：第5回までのテキストの内容および配布資料等を見直しておく。	60
第7回	東アジア国際秩序の変動と清朝・日本の関係 明治日本の対外進出が清朝および周辺諸国に与えた影響、日清戦争勃発の背景を理解する。	
	予習：テキスト①112～125頁および②2～13頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第8回	ロシアのアジア進出と清朝の対外政策 清朝とロシアによる中央アジア分割やムスリムの動向を学ぶ。	
	予習：テキスト①127～137頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第9回	海外移民と留学生 海外移民や留学生が激増した背景を学び、愛国主義やナショナリズムの起源を探る。	
	予習：テキスト①138～148頁、②89～104頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60

第10回	「不平等条約」と法制改革 明治日本や清朝・中華民国政府が行った近代法整備の歴史的意味を考える。	
	予習：テキスト②61～88頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第11回	国際対立の激化と清朝の終焉 義和団事件前後の対外関係の変化や、辛亥革命の勃発から中華民国成立までの過程を学ぶ。	
	予習：テキスト②42～56、105～140頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第12回	中華民国北京政府の国家構想 1910年代・1920年代の中国における統治システムの再編、周辺諸国との関係について理解する。	
	予習：テキスト②142～151頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第13回	第一次世界大戦と中華民国 ヨーロッパを中心に展開した世界大戦がアジア諸国にもたらした影響を考える。	
	予習：テキスト②152～171頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第14回	第一次世界大戦後の国際社会と中国 国際社会における地位の獲得を目指して中国が進めた様々な対外政策の歴史的意味を理解する。	
	予習：テキスト②182～205頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第15回	前期授業のまとめと補足 19世紀以降の国際情勢の変化と清朝・中華民国による近代国家建設の過程をふりかえる。	
	予習・復習：テキスト①②を再度熟読し、配布資料を参照しながら、全てのキーワードについて説明できるようにする。	120

#### 授業の方法

- ・ 授業は講義形式で行うが、トピックに応じて質疑応答を行う双方向授業も取り入れるため、十分な予習と復習が求められる。
- ・ 近現代アジア史に関する基本的な理解ができているか、必要な用語を理解しているかなどを確認する。
- ・ 授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。

#### 成績評価の方法

学期末試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）による総合評価とする。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①近現代アジア史における基本的な理解ができているか。
- ②1840年代～1920年代の国際情勢の変化がアジア諸国に及ぼした影響や、清朝および中華民国が進めた近代国家建設の試みの歴史的意味を論理的に説明できるか。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

授業内容をより深く理解するため、19世紀～20世紀初年の世界史について大まかに知っておくことが望ましい。

#### テキスト

- ①吉澤誠一郎『清朝と近代世界 19世紀（シリーズ中国近現代史①）』（岩波書店、2010年）
- ②川島真『近代国家への模索 1894-1925（シリーズ中国近現代史②）』（岩波書店、2010年）

#### 参考書

授業中に適宜指示する。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	近現代アジア史 A <2>		
教員名	久保 茉莉子		
科目ナンバー	1201496010	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

### テーマ・概要

19世紀以降、中国、日本、その他アジア各国は、欧米諸国の影響を大いに受けながら、近代国家建設の努力を続けた。この背景には、欧米諸国の積極的なアジア進出、アジア諸国における既存の統治システムの動揺など、複数の要因が複雑に絡み合う状況が存在した。もともと独自の制度や文化を有し、一定程度安定的な統治を行っていたアジアの国々は、なぜ、「近代化」「欧米化」を急速に進める道を選んだのか。それは何をもたらしたのか。  
本講義では、19世紀～20世紀初年の中国を中心としながら、アジアにおける「近代化」「欧米化」について、様々な角度から見つめていくことで、その歴史的意义を問い直すこととする。

### 到達目標

- DP1（教養の修得）を実現するため、次の3点を到達目標とする。
- ①19～20世紀の国際情勢の変化がアジア諸国に及ぼした影響を理解する。
  - ②清朝や中華民国が進めた近代国家建設の試みの歴史的意义を説明できるようにする。
  - ③数十年単位で日本や中国を含むアジアの歴史を理解する視点を養う。

### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	<b>授業ガイダンス</b> ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・アジア近現代史を学ぶ意味を考える。	
	予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習：授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	30
第2回	<b>清朝の統治構造と対外関係</b> 19世紀以降のアジア諸国における変・不変を理解するための前提として、清朝の統治システムや周辺諸国との関係を確認する。	
	予習：テキスト①2～38頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第3回	<b>西洋諸国のアジア進出と中国社会の変容</b> アヘン戦争が勃発するまでの経緯や中国各地で内乱が起きた背景、清朝の対応策について学ぶ。	
	予習：テキスト①38～88頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60

第4回	第二次アヘン戦争と清朝の対外政策の転換 第二次アヘン戦争勃発の背景と、アジア諸国における近代外交の形成過程を理解する。	
	予習：テキスト①91～98頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第5回	新たな知識の受容と普及 19世紀半ば以降に中国で外国語学習や洋書の翻訳が推進されたことの歴史的意味を考える。	
	予習：テキスト①99～107頁および②26～40頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第6回	欧米文化の流入と伝統文化への影響 ・西洋諸国のアジア進出が中国社会に及ぼした影響を考える。 ・第5回までの授業内容について確認する。	
	予習：第5回までのテキストの内容および配布資料等を見直しておく。	60
第7回	東アジア国際秩序の変動と清朝・日本の関係 明治日本の対外進出が清朝および周辺諸国に与えた影響、日清戦争勃発の背景を理解する。	
	予習：テキスト①112～125頁および②2～13頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第8回	ロシアのアジア進出と清朝の対外政策 清朝とロシアによる中央アジア分割やムスリムの動向を学ぶ。	
	予習：テキスト①127～137頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第9回	海外移民と留学生 海外移民や留学生が激増した背景を学び、愛国主義やナショナリズムの起源を探る。	
	予習：テキスト①138～148頁、②89～104頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60

第10回	「不平等条約」と法制改革 明治日本や清朝・中華民国政府が行った近代法整備の歴史的意味を考える。	
	予習：テキスト②61～88頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第11回	国際対立の激化と清朝の終焉 義和団事件前後の対外関係の変化や、辛亥革命の勃発から中華民国成立までの過程を学ぶ。	
	予習：テキスト②42～56、105～140頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第12回	中華民国北京政府の国家構想 1910年代・1920年代の中国における統治システムの再編、周辺諸国との関係について理解する。	
	予習：テキスト②142～151頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第13回	第一次世界大戦と中華民国 ヨーロッパを中心に展開した世界大戦がアジア諸国にもたらした影響を考える。	
	予習：テキスト②152～171頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第14回	第一次世界大戦後の国際社会と中国 国際社会における地位の獲得を目指して中国が進めた様々な対外政策の歴史的意味を理解する。	
	予習：テキスト②182～205頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第15回	前期授業のまとめと補足 19世紀以降の国際情勢の変化と清朝・中華民国による近代国家建設の過程をふりかえる。	
	予習・復習：テキスト①②を再度熟読し、配布資料を参照しながら、全てのキーワードについて説明できるようにする。	120



#### 授業の方法

- ・ 授業は講義形式で行うが、トピックに応じて質疑応答を行う双方向授業も取り入れるため、十分な予習と復習が求められる。
- ・ 近現代アジア史に関する基本的な理解ができているか、必要な用語を理解しているかなどを確認する。
- ・ 授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。

#### 成績評価の方法

学期末試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）による総合評価とする。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①近現代アジア史における基本的な理解ができているか。
- ②1840年代～1920年代の国際情勢の変化がアジア諸国に及ぼした影響や、清朝および中華民国が進めた近代国家建設の試みの歴史的意味を論理的に説明できるか。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

授業内容をより深く理解するため、19世紀～20世紀初年の世界史について大まかに知っておくことが望ましい。

#### テキスト

- ①吉澤誠一郎『清朝と近代世界 19世紀（シリーズ中国近現代史①）』（岩波書店、2010年）
- ②川島真『近代国家への模索 1894-1925（シリーズ中国近現代史②）』（岩波書店、2010年）

#### 参考書

授業中に適宜指示する。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	近現代アジア史B <1>		
教員名	久保 茉莉子		
科目ナンバー	1201496020	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 後期

### テーマ・概要

21世紀に突入してから約20年間の時を経てなお、前世紀から続く様々な問題が未解決のまま残されている。日本についていえば、中国、韓国、ロシアなど、周辺諸国との間に、領土をめぐる摩擦を抱えており、解決の糸口は見えてこない。今日に至るまでに、世界各国が協力して、国際的な制度・機関の整備を進めてきたにもかかわらず、なぜ解決できないのか。それを理解するためには、過去に遡り、その原因を丁寧に探っていくことが求められる。

そこで、本講義では、20世紀の中国を中心としつつ、日本を含むアジア諸国の動向、さらにはそれらと欧米諸国との関係を見ていくことで、現代の世界が抱える問題を解決するための糸口を探る。

### 到達目標

DP1（教養の修得）を実現するため、次の3点を到達目標とする。

- ①1920年代～1970年代の国際情勢の変化がアジア諸国に及ぼした影響を理解する。
- ②中華民国や中華人民共和国が進めた国家建設の歴史的意味を説明できるようにする。
- ③数十年単位で日本や中国を含むアジアの歴史を理解する視点を養う。

### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	<b>授業ガイダンス</b> ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・アジア近現代史を学ぶ意味を考える。	
	予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習：授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	30
第2回	<b>南京国民政府の成立と国家構想</b> 国際情勢の変遷と関連づけながら、南京国民政府が成立し、国家建設を進めていく過程を学ぶ。	
	予習：テキスト①2～72頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第3回	<b>戦間期中国の社会変容</b> 1920年代・1930年代の中国都市部における言論空間や文化の変化とその背景を探る。	
	予習：テキスト①82～98頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60

第4回	日本の中国東北部進出と中国人の対日感情 満洲事変の勃発とその処理をめぐる中国、日本、その他諸外国の動向を理解する。	
	予習：テキスト①72～81、138～168頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第5回	国民政府の統治と中国共産党の革命運動 中国共産党の活動と、それに対する国民政府の態度について、中ソ関係に注目しながら学ぶ。	
	予習：テキスト①100～136頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第6回	盧溝橋事件から日中全面戦争へ 日中戦争が勃発・激化する過程について、日本の思惑や中国の抗戦体制の形成、諸外国の動向を総合的に理解する。	
	予習：テキスト①170～190頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第7回	第二次世界大戦の展開と中国 ヨーロッパにおける戦局の変化と日中戦争の展開とを関連づけて、第二次世界大戦下の国際情勢を理解する。	
	予習：テキスト①205～220頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第8回	戦時中国における都市・農村の社会状況 戦時下で中国の人々がいかにかに生きていたのか、日本との比較も行いながら理解する。	
	予習：テキスト①190～205頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第9回	第二次世界大戦の終結と中国の戦後復興政策 1945年前後の国際情勢と中国の政治・社会状況を整理し、国民政府の戦後復興政策が破綻した原因を探る。	
	予習：テキスト①220～232頁、②2～42頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60

第10回	中華人民共和国の成立と国際社会の動向 1950年代前半、社会主義への道を選択した中国共産党の国家建設について、冷戦の展開と関連づけながら学ぶ。	
	予習：テキスト②44～77頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第11回	急進的社会主義路線の選択と失敗 1950年代以降に進められた社会主義化政策の具体的内容とその背景について、ソ連や東欧諸国の動向なども踏まえて見ていく。	
	予習：テキスト②80～118頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第12回	試行錯誤する社会主義 1960年代半ば以降の中国共産党による経済調整政策と対外関係の変化について学ぶ。	
	予習：テキスト②120～143頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第13回	「文化大革命」時期の混乱と終結 1960年代の国際情勢と国内の政治・社会状況を整理し、文化大革命の原因や展開過程について理解する。	
	予習：テキスト②146～173頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第14回	「改革開放」時代の到来と国際関係の変化 1970年代の中国をとりまく国際環境と中国社会の実態を知り、「改革開放」が進められることとなった背景を探る。	
	予習：テキスト②176～201頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第15回	後期授業のまとめと補足 20世紀の国際情勢の変化と中華民国・中華人民共和国の国家建設の道程を振り返る。	
	予習・復習：テキスト①②を再度熟読し、配布資料を参照しながら、全てのキーワードについて説明できるようにする。	120

#### 授業の方法

- ・ 授業は講義形式で行うが、トピックに応じて質疑応答を行う双方向授業も取り入れるため、十分な予習と復習が求められる。
- ・ 近現代アジア史に関する基本的な理解ができているか、必要な用語を理解しているかなどを確認する。
- ・ 授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。

#### 成績評価の方法

学期末試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）による総合評価とする。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①近現代アジア史における基本的な理解ができているか。
- ②1920年代～1970年代の国際情勢の変化がアジア諸国に及ぼした影響や、中華民国および中華人民共和国が進めた国家建設の歴史的意味を論理的に説明できるか。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

授業内容をより深く理解するため、20世紀の世界史について大まかに知っておくことが望ましい。

#### テキスト

- ①石川禎浩『革命とナショナリズム 1925-1945（シリーズ中国近現代史③）』（岩波書店、2010年）
- ②久保亨『社会主義への挑戦 1945-1971（シリーズ中国近現代史④）』（岩波書店、2011年）

#### 参考書

授業中に適宜指示する。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	近現代アジア史B <2>		
教員名	久保 茉莉子		
科目ナンバー	1201496020	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 後期

<b>テーマ・概要</b>			
<p>21世紀に突入してから約20年間の時を経てなお、前世紀から続く様々な問題が未解決のまま残されている。日本についていえば、中国、韓国、ロシアなど、周辺諸国との間に、領土をめぐる摩擦を抱えており、解決の糸口は見えてこない。今日に至るまでに、世界各国が協力して、国際的な制度・機関の整備を進めてきたにもかかわらず、なぜ解決できないのか。それを理解するためには、過去に遡り、その原因を丁寧に探っていくことが求められる。</p> <p>そこで、本講義では、20世紀の中国を中心としつつ、日本を含むアジア諸国の動向、さらにはそれらと欧米諸国との関係を見ていくことで、現代の世界が抱える問題を解決するための糸口を探る。</p>			

<b>到達目標</b>			
<p>DP1（教養の修得）を実現するため、次の3点を到達目標とする。</p> <p>①1920年代～1970年代の国際情勢の変化がアジア諸国に及ぼした影響を理解する。  ②中華民国や中華人民共和国が進めた国家建設の歴史的意味を説明できるようにする。  ③数十年単位で日本や中国を含むアジアの歴史を理解する視点を養う。</p>			

<b>授業の計画と準備学修</b>			
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)	
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	<b>授業ガイダンス</b> ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・アジア近現代史を学ぶ意味を考える。		
	予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習：授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。	30	
第2回	<b>南京国民政府の成立と国家構想</b> 国際情勢の変遷と関連づけながら、南京国民政府が成立し、国家建設を進めていく過程を学ぶ。		
	予習：テキスト①2～72頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60	
第3回	<b>戦間期中国の社会変容</b> 1920年代・1930年代の中国都市部における言論空間や文化の変化とその背景を探る。		
	予習：テキスト①82～98頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60	

第4回	日本の中国東北部進出と中国人の対日感情 満洲事変の勃発とその処理をめぐる中国、日本、その他諸外国の動向を理解する。	
	予習：テキスト①72～81、138～168頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第5回	国民政府の統治と中国共産党の革命運動 中国共産党の活動と、それに対する国民政府の態度について、中ソ関係に注目しながら学ぶ。	
	予習：テキスト①100～136頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第6回	盧溝橋事件から日中全面戦争へ 日中戦争が勃発・激化する過程について、日本の思惑や中国の抗戦体制の形成、諸外国の動向を総合的に理解する。	
	予習：テキスト①170～190頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第7回	第二次世界大戦の展開と中国 ヨーロッパにおける戦局の変化と日中戦争の展開とを関連づけて、第二次世界大戦下の国際情勢を理解する。	
	予習：テキスト①205～220頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第8回	戦時中国における都市・農村の社会状況 戦時下で中国の人々がいかに生きていたのか、日本との比較も行いながら理解する。	
	予習：テキスト①190～205頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60
第9回	第二次世界大戦の終結と中国の戦後復興政策 1945年前後の国際情勢と中国の政治・社会状況を整理し、国民政府の戦後復興政策が破綻した原因を探る。	
	予習：テキスト①220～232頁、②2～42頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。	60

第10回	<p>中華人民共和国の成立と国際社会の動向 1950年代前半、社会主義への道を選択した中国共産党の国家建設について、冷戦の展開と関連づけながら学ぶ。</p> <p>予習：テキスト②44～77頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。</p>	60
第11回	<p>急進的社会主义路線の選択と失敗 1950年代以降に進められた社会主義化政策の具体的内容とその背景について、ソ連や東欧諸国の動向なども踏まえて見ていく。</p> <p>予習：テキスト②80～118頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。</p>	60
第12回	<p>試行錯誤する社会主義 1960年代半ば以降の中国共産党による経済調整政策と対外関係の変化について学ぶ。</p> <p>予習：テキスト②120～143頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。</p>	60
第13回	<p>「文化大革命」時期の混乱と終結 1960年代の国際情勢と国内の政治・社会状況を整理し、文化大革命の原因や展開過程について理解する。</p> <p>予習：テキスト②146～173頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。</p>	60
第14回	<p>「改革開放」時代の到来と国際関係の変化 1970年代の中国をとりまく国際環境と中国社会の実態を知り、「改革開放」が進められることとなった背景を探る。</p> <p>予習：テキスト②176～201頁を熟読する。 復習：キーワードについて説明できるようにする。</p>	60
第15回	<p>後期授業のまとめと補足 20世紀の国際情勢の変化と中華民国・中華人民共和国の国家建設の道程を振り返る。</p> <p>予習・復習：テキスト①②を再度熟読し、配布資料を参照しながら、全てのキーワードについて説明できるようにする。</p>	120



#### 授業の方法

- ・ 授業は講義形式で行うが、トピックに応じて質疑応答を行う双方向授業も取り入れるため、十分な予習と復習が求められる。
- ・ 近現代アジア史に関する基本的な理解ができているか、必要な用語を理解しているかなどを確認する。
- ・ 授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。

#### 成績評価の方法

学期末試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）による総合評価とする。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①近現代アジア史における基本的な理解ができているか。
- ②1920年代～1970年代の国際情勢の変化がアジア諸国に及ぼした影響や、中華民国および中華人民共和国が進めた国家建設の歴史的意味を論理的に説明できるか。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

授業内容をより深く理解するため、20世紀の世界史について大まかに知っておくことが望ましい。

#### テキスト

- ①石川禎浩『革命とナショナリズム 1925-1945（シリーズ中国近現代史③）』（岩波書店、2010年）
- ②久保亨『社会主義への挑戦 1945-1971（シリーズ中国近現代史④）』（岩波書店、2011年）

#### 参考書

授業中に適宜指示する。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	近現代欧米史 A <1>		
教員名	佐伯 哲朗		
科目ナンバー	1301496030	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

#### テーマ・概要

現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的知識を身につけ、専門科目学習の基礎を作ることを目指す。前期の授業では、18世紀末のアメリカとフランスの革命から19世紀後半の帝国主義時代までのヨーロッパとアメリカの歴史をたどる。このなかで、現代世界の諸問題について歴史的背景を含めて理解することを目指す。

#### 到達目標

欧米近代史についての基礎的な知識を習得する。ある出来事について、歴史的な展開と世界史的な関連の両面を知ることによって、歴史的なものを見方を養う。

#### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	授業の概要、歴史とは何か	
	配布プリントを読む。第1回については授業後の復習となる。	60
第2回	イギリス領北米13植民地	
	野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』（ミネルヴァ書房）、3-34頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第3回	アメリカ合衆国の独立	
	野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』（ミネルヴァ書房）、35-45頁を熟読する。配布プリントを読む。	60

第4回	フランス史の基礎知識、1789年の革命	
	遅塚忠躬『フランス革命』（岩波書店）、40-86頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第5回	フランス革命の歴史過程、山岳派の台頭と没落	
	遅塚忠躬『フランス革命』（岩波書店）、87-128頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第6回	フランス革命の意義	
	遅塚忠躬『フランス革命』（岩波書店）、128-190頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第7回	1848年革命、ドイツ統一	
	小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』（ミネルヴァ書房）、112-120頁、145-147頁、谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史 22巻 近代ヨーロッパの情熱と苦悩』（中央公論新社）、76-160頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第8回	ジェントルマンの支配体制	
	谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史 22巻 近代ヨーロッパの情熱と苦悩』（中央公論新社）、368-377頁、384-390頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第9回	産業資本主義の発展	
	谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史 22巻 近代ヨーロッパの情熱と苦悩』（中央公論新社）、360-383頁、川北稔編『イギリス史』（山川出版社）、245-255頁を熟読する。配布プリントを読む。	60

第10回	ドイツ第二帝政の政治支配	
	大内宏一『ビスマルク』（山川出版社）、1-58頁、木村靖二編『ドイツ史』（山川出版社）、204-232頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第11回	ビスマルクの国内政策	
	大内宏一『ビスマルク』（山川出版社）、58-87頁、木村靖二編『ドイツ史』（山川出版社）、232-242頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第12回	ヴィルヘルム時代の政策と軍国主義	
	木村靖二編『ドイツ史』（山川出版社）、243-278頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第13回	フランス第三共和制の危機	
	谷川稔・渡辺和行編『近代フランスの歴史』（ミネルヴァ書房）、153-163頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第14回	ヨーロッパ諸国の植民地支配	
	小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』（ミネルヴァ書房）、191-199頁、木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波書店）、13-47頁、を熟読する。配布プリントを読む。	90
第15回	革命前夜のロシア	
	小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』（ミネルヴァ書房）、169-175頁、274-275頁、和田春樹編『ロシア史』（山川出版社）、253-277頁を熟読する。配布プリントを読む。	120

#### 授業の方法

私の方で項目ごとに時代背景や基礎知識について説明する。可能な範囲で地図などの資料を利用して、過去の歴史についてのイメージをもってもらえるようにする。

第2回以降の授業では、若干の時間を使って前回の授業で提出された質問に回答する。

#### 成績評価の方法

学期末に論述形式の試験をする。また、各回の授業終了時に簡単なリアクション・ペーパーの提出を求める。評価の割合については、試験が80点、リアクション・ペーパーを含む平常点が20点、を予定している。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点を踏まえて評価する。この授業で得た情報を用いて、例えば、フランス革命、ドイツ統一などの重要な事柄の概略や意味を、この授業の受講者でない他の人（例えば友人や家族）に説明して理解してもらえるかどうか。試験答案の記述内容が高校世界史教科書に書かれているレベルにとどまる場合には、合格点は与えられない。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

大航海時代以降の欧米の歴史について、高校世界史程度の基礎知識を備えていることを前提としている。

#### テキスト

使用しない。

#### 参考書

有賀貞・大下尚一・志邨晃佑・平野孝編『アメリカ史』（1、2巻）山川出版社、1993～94年。村岡健次・木畑洋一編『イギリス史』（3巻）山川出版社、1991年。柴田三千雄・榎山紘一・福井憲彦編『フランス史』（2、3巻）山川出版社、1995～96年。成瀬治・山田欣吾・木村靖二編『ドイツ史』（2、3巻）山川出版社、1996～97年。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。また、リアクションペーパーに質問を書いた場合には、次回の授業で回答する。

科目名	近現代欧米史 A <2>		
教員名	中島 幹人		
科目ナンバー	1301496030	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

**テーマ・概要**  
 経済的格差・宗教的対立などの問題を抱える現代世界を理解するうえで重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくってもらうことをめざす。本講義ではとくに、17世紀以降の主権国家の成立から18世紀末のアメリカとフランスの革命、そして近代社会の基礎を形作ることとなったイギリス産業革命までの歴史をたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。

**到達目標**  
 本講義では、現代市民社会を生み出した歴史的イベントの推移の基本的な知識を獲得し、その知識を元に自ら現代社会に問いかける姿勢を身につけることを目標とします。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス：授業の目的・内容・進め方・評価方法についての説明、および導入	
	あらかじめ、シラバスの内容を確認し、「参考書」欄で示した書籍に目を通しておくこと	60分
第2回	近世ヨーロッパの成立(1)：諸国家間体系の成立	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第3回	近世ヨーロッパの成立(2)：「絶対主義」国家の内実	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所(章・節)を確認しておくこと	60分

第4回	アメリカの独立革命(1)：「新大陸」への入植	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第5回	アメリカの独立革命(2)：イギリス北米植民地の形成と発展	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第6回	アメリカの独立革命(3)：独立運動の展開①(イギリス第一帝国の再編と反対運動)	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第7回	アメリカの独立革命(4)：独立革命の展開②(共和国の樹立に向けて)	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第8回	フランス革命(1)：18世紀における旧体制の変質(経済的発展とブルジョワジーの伸展)	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第9回	フランス革命(2)：革命的状況の醸成(「世論」の興隆)	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所(章・節)を確認しておくこと	60分

第10回	フランス革命(3)：革命の展開①（名士会から1789年まで）	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第11回	フランス革命(4)：革命の展開②（1791年憲法体制から統領政府まで）	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第12回	フランス革命(5)：「文化革命」としてのフランス革命	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第13回	産業資本主義の発展(1)：イギリスにおける産業革命の基礎と展開	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第14回	産業資本主義の発展(2)：産業革命による社会の変化	
	「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと	60分
第15回	まとめと試験および解説	
	配布レジュメを参照しておくこと	100分



#### 授業の方法

「授業の計画」において掲げた各テーマごとにレジュメを配布・参照して講義を進める。また、授業の最後に関連する画像（絵画・写真）・データ（グラフ・表）などを提示しながら、授業のまとめを行い、理解の深化をはかる。

#### 成績評価の方法

成績評価については期末試験（論述形式）を80%、学習態度（出席2/3以上）を20%とする。  
試験・学習態度の評価基準に関する詳細はガイダンス時に提示する。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

欧米研究・西洋政治史・国際関係論など

#### テキスト

特定のテキストは使用しない。授業時にテーマに即したレジュメを配布する。

#### 参考書

杉本淑彦・竹中幸史『教養のフランス近現代史』 ミネルヴァ書房、2015年  
小山哲・上垣豊他編著『大学で学ぶ西洋史（近現代）』 ミネルヴァ書房、2011年  
谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史-国民国家形成の彼方に-』 ミネルヴァ書房、2006年  
若尾祐司・井上茂子編著『近代ドイツの歴史-18世紀から現代まで-』 ミネルヴァ書房、2005年  
村岡健次・川北稔編著『イギリス近代史-宗教改革から現代まで-（改訂版）』 ミネルヴァ書房、2003年  
大下尚一・服部春彦他編『西洋の歴史 近現代編（増補版）』 ミネルヴァ書房、1998年  
野村達朗編著『アメリカ合衆国の歴史』 ミネルヴァ書房、1998年  
そのほか、山川出版社の「各国史」シリーズや岩波書店の「講座世界史」など。  
また、授業にて配布するレジュメにおいても参考文献一覧を提示する。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	近現代欧米史B <1>		
教員名	佐伯 哲朗		
科目ナンバー	1301496040	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 後期

#### テーマ・概要

現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的知識を身につけ、専門科目学習の基礎を作ることを目指す。後期の授業では、20世紀初頭の時期から20世紀中葉の第2次世界大戦の時代までの国際関係、ドイツを中心にして欧州諸国の歴史をたどる。この中で、現代世界の諸問題を歴史的背景を含めて理解できるようにする。

#### 到達目標

欧米の近現代史についての基礎的な知識を習得する。  
ある出来事について歴史的な展開と世界史的な関連の両面について知ることによって、歴史的なものの見方を養う。

#### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	第1次大戦の原因とバルカン問題	
	木村靖二『第一次世界大戦』(筑摩書房)、43-46頁、柴宜弘編『バルカン史』(山川出版社)、196-217頁、225-241を熟読する。配布プリントを読む。	90
第2回	世界戦争への道、ドイツの国内事情	
	木村靖二『第一次世界大戦』(筑摩書房)、46-54頁、木村靖二・柴宜弘・長沼秀世『世界の歴史 26巻 世界大戦と現代文化の開幕』(中央公論社)、30-39頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第3回	開戦時の国内体制	
	木村靖二『第一次世界大戦』(筑摩書房)、54-75頁、若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』(ミネルヴァ書房)、167-169頁を熟読する。配布プリントを読む。	60

第4回	戦争への動員	
	若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、170-175頁、木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波書店）、67-89頁、および配布プリントを熟読する。	90
第5回	大戦期ドイツの日常生活	
	木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、86-89頁、若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、175-177頁、藤原辰史『カブラの冬』（人文書院）を熟読する。	90
第6回	戦争の終結	
	若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、177-187、193-195頁、西崎文子『アメリカ外交とは何か』（岩波書店）、90-95頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第7回	戦争の帰結	
	木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、170-205頁、木村靖二『二つの世界大戦』（山川出版社）、28-41頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第8回	ロシア革命	
	和田春樹編『ロシア史』（山川出版社）、278-310頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第9回	ヴェルサイユ体制	
	木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、205-217頁、牧野雅彦『ヴェルサイユ条約』（中央公論新社）、3-258頁、西崎文子『アメリカ外交とは何か』（岩波書店）、95-97頁を熟読する。配布プリントを読む。	90

第10回	1920年代アメリカの明暗、世界恐慌	
	野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』（ミネルヴァ書房）、171-193頁、木村靖二・柴宜弘・長沼秀世『世界の歴史 26巻 世界大戦と現代文化の開幕』（中央公論社）189-211、289-308頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第11回	ナチズムの思想と運動	
	石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社）、20-112頁、山本秀行『ナチズムの時代』（山川出版社）、1-22頁を熟読する。配布プリントを読む。	90
第12回	ナチズム、一党独裁体制の成立	
	石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社）、114-181頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第13回	「民族共同体」の建設	
	山本秀行『ナチズムの時代』（山川出版社）、36-42頁、石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社）、254-309頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第14回	「第三帝国」の政治支配	
	石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社）、192-251頁を熟読する。配布プリントを読む。	60
第15回	第2次大戦前夜の国際関係、第2次世界大戦	
	木畑洋一・秋田茂編『近代イギリスの歴史』（ミネルヴァ書房）、149-152頁を熟読する。配布プリントを読む。	60

<p><b>授業の方法</b></p> <p>プリントを配布して、項目ごとに時代背景や基礎知識について説明する。なお、可能な範囲でリクシヨンペーパーによる質問に答えるようにしたい。</p>
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>学期末には、講義内容についての論述試験を行う。他に授業終了時に簡単なリアクシヨン・ペーパーの提出を求める。評価の割合については、試験が80点、リアクシヨン・ペーパーを含む平常点が20点、を予定している。</p>
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.</p> <p>次の点を踏まえて評価する。この授業で得た情報を用いて、第1次大戦、ナチズムなどの重要な事柄の概略や意味を、この授業の受講者でない他の人（例えば友人や家族）に説明して理解してもらえるかどうか。</p> <p>試験答案の記述内容が高校世界史教科書に書かれているレベルにとどまる場合には、合格点は与えられない。</p>
<p><b>必要な予備知識／先修科目／関連科目</b></p> <p>前期に近現代欧米史Aを履修していることが望ましい。</p>
<p><b>テキスト</b></p> <p>使用しない。</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>近現代欧米史A（前期の授業）の参考書の項目を参照のこと。そのほかには、木畑洋一『二〇世紀の歴史』岩波書店、2014年。</p>
<p><b>質問・相談方法等(オフィス・アワー)</b></p> <p>授業終了後に教室で受け付ける。</p>

科目名	近現代欧米史B <2>		
教員名	中島 幹人		
科目ナンバー	1301496040	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 後期

### テーマ・概要

経済的格差・宗教的対立などの問題を抱える現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくってもらうことをめざす。本講義ではとくに、フランス革命以降の19世紀ヨーロッパの歴史（前半のウィーン体制、後半における国民国家の形成）、独立戦争以降のアメリカの社会的変化、および19世紀末の帝国主義時代とそれに起因する世界大戦までのヨーロッパとアメリカの歴史をたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。

### 到達目標

現代に直接連なる19世紀から20世紀の歴史を確認することで、現代社会における諸問題を考察するための知識を獲得し、その知識から自ら現代社会を相対化する視点を身につけることを目標とする。

### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	ガイダンス：授業の目的・内容・進め方、および成績評価についての説明	
	あらかじめ、シラバスで授業内容を確認し、「参考書」欄で示した書籍に目を通しておくこと	60分
第2回	19世紀前半のヨーロッパ社会(1)：ウィーン体制の成立	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第3回	19世紀前半のヨーロッパ社会(2)：ウィーン体制の動揺	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分

第4回	19世紀前半のヨーロッパ社会(3)：ウィーン体制の崩壊	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第5回	19世紀前半のアメリカ社会(1)：「市場革命」の時代	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第6回	19世紀前半のアメリカ社会(2)：南部奴隷制度と南北戦争	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第7回	19世紀後半のヨーロッパ社会(1)：国民国家の建設(①イタリア)	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第8回	19世紀後半のヨーロッパ社会(2)：国民国家の建設(②ドイツ)	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第9回	19世紀後半のヨーロッパ社会(3)：「国民」創造の努力	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分

第10回	19世紀後半のアメリカ社会(1)：北部工業社会の進展と南部再建・西部開拓	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第11回	19世紀後半のアメリカ社会(2)：「金びか時代」	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第12回	帝国主義と第一次世界大戦(1)：帝国主義(ヨーロッパの拡大と「他者」への視線)	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第13回	帝国主義と第一次世界大戦(2)：大戦の経過とその帰結	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第14回	ヴェルサイユ体制：ヴェルサイユ体制下の各国の状況	
	「参考書」欄で示した書籍における該当箇所(章・節)を確認しておくこと	60分
第15回	まとめと試験および解説	
	配布レジュメを参照しておくこと	100分



#### 授業の方法

配布資料（レジュメ）を参照しながら講義を進める。また、授業の最後にまとめとしてプロジェクターを用いた画像資料の提示をできるだけ行いたい

#### 成績評価の方法

成績評価については、期末試験（論述形式）を80%、学習態度（出席2/3以上）を20%とする。  
期末試験・学習態度の評価基準の詳細についてはガイダンス時に提示する。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

欧米研究・西洋政治史・国際関係論など

#### テキスト

特定のテキストは使用しない。授業においてテーマに沿ったレジュメを配布する。

#### 参考書

杉本淑彦・竹中幸史『教養のフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2015年  
大下尚一・服部春彦他編『西洋の歴史 近現代編（増補版）』ミネルヴァ書房、1998年  
小山哲・上垣豊他編著『大学で学ぶ西洋史（近現代）』ミネルヴァ書房、2011年  
村岡健次・川北稔編著『イギリス近代史-宗教改革から現代まで-（改訂版）』ミネルヴァ書房、2003年  
谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史-国民国家形成の彼方に-』ミネルヴァ書房、2006年  
若尾祐司・井上茂子編著『近代ドイツの歴史-18世紀から現代まで-』ミネルヴァ書房、2005年  
野村達朗編著『アメリカ合衆国の歴史』ミネルヴァ書房、1998年  
そのほか、山川出版社の「各国史」シリーズや岩波書店の「講座世界史」など。  
また、授業にて配布するレジュメにおいても参考文献一覧を提示する。

#### 質問・相談方法等（オフィス・アワー）

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	歴史トピックス（中東地域史の諸問題）		
教員名	佐々木 紳		
科目ナンバー	1101496080	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

### テーマ・概要

【テーマ】中東地域史の諸問題  
【概要】現在、中東地域に関連するトピックが報道されない日はないといつてもよい。過去にさかのぼってみても、中東地域はつねに国際政治、国際経済、そして文化交流の一大焦点でありつづけてきた。したがって、中東地域の「いま」を理解するためには、この地域の過去（歴史）を知らねばならない。ところが、これまで高校の世界史の教科書などで教えられてきた「イスラーム史」と、中東地域史に関する最新の学術成果とのあいだには、極めて大きな隔りがある。この授業では、教科書レベルの「イスラーム史」の確認から始めて、それを批判的に検討しながら「いま」に通用する中東地域史の理解をめざす。

### 到達目標

- DP1（教養の修得）を実現するため、下記の点を到達目標とする。
- ・既存の「イスラーム史」についての理解を相対化し、その問題点を説明できるようになる。
  - ・中東地域史の最新の学術成果に触れ、その意味と意義を理解できるようになる。
  - ・中東地域の「いま」を歴史的視点から分析し、説明できるようになる。

### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業の紹介と導入	
	【予習】 シラバスを読む。高校の世界史や倫理の教科書を用いて、「イスラーム」や「イスラーム史」に関する情報を思い出しておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第2回	「中東」とはなにか？	
	【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
第3回	「古代オリエント史」をめぐる諸問題	
	【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60

第4回	「古代末期」とイスラームの誕生	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60
第5回	中東地域史のアフロ=ユーラシア的展開	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60
第6回	世界システム論のなかの中東地域史	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60
第7回	近世イスラーム帝国の時代（1）	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60
第8回	近世イスラーム帝国の時代（2）	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60
第9回	中東近代史のインタラクティビティ（1） ※中間レポート提出（予定）。	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60

第10回	中東近代史のインタラクティビティ (2)	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60
第11回	中東近代史のインタラクティビティ (3)	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60
第12回	中東現代史から「いま」を読む (1)	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60
第13回	中東現代史から「いま」を読む (2)	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60
第14回	中東現代史から「いま」を読む (3)	
	<p>【予習】 教科書や参考書を用いて、授業テーマに関する基本情報を整理しておく。</p> <p>【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。</p>	60
第15回	授業の総括と確認	
	<p>【予習・復習】 授業を通して得た技能・知見・考え方のなかで、今後の各自の学習・研究に活かすことができるものを見きわめる。</p>	60

#### 授業の方法

- ・ 講義形式で進める。
- ・ 特定のテキストは用いず、レジュメ等を授業内で適宜配付する。

#### 成績評価の方法

- ・ 授業への取り組み（20%）、中間レポート（30%）、期末試験（または期末レポート）（50%）。
- ・ 中間レポートの未提出者には期末試験の受験資格（または期末レポートの提出資格）を与えないので注意すること。
- ・ 授業に関する質問や意見を記入する用紙を毎回提出してもらい、授業への取り組みの度合いを判定する材料とする。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

- ・ 通説ないし教科書的な理解をひっくり返すことに「快感」を見いだす授業にしたいので、授業前に基本情報を確認する「予習」を怠らないでほしい。
- ・ 関連科目①：「アジアの歴史と文化A」では、長らく中東地域を領有したオスマン帝国の歴史を扱う。
- ・ 関連科目②：「アジアの歴史と文化B」では、現代中東の地域大国の一つ、トルコ共和国の歴史を扱う。
- ・ 関連科目③：「文化交流史」では、中東地域を含むユーラシア世界に展開したトルコ系諸民族（テュルク）の歴史を扱う。

#### テキスト

とくに設けない。

#### 参考書

関連文献は、日本語・ヨーロッパ諸語のものを中心に授業内で紹介する。通説や教科書的な理解を確認するための参考書・事典類として、下記のものをおすすめする。

- ・ 後藤明『イスラーム世界史』〈角川ソフィア文庫〉（KADOKAWA、2017年）
- ・ 三浦徹編『イスラーム世界の歴史的展開』（放送大学教育振興会、2011年）
- ・ 佐藤次高編『西アジア史I：アラブ』（山川出版社、2002年）
- ・ 永田雄三編『西アジア史II：イラン・トルコ』（山川出版社、2002年）
- ・ 大塚和夫ほか編『岩波イスラーム辞典』（岩波書店、2002年）

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	歴史トピックス (日本女性史)		
教員名	伊集院 葉子		
科目ナンバー	1101496090	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 後期

#### テーマ・概要

家族と結婚の歴史を考察します。「家族」は、人間社会のはじめから存在したものではありません。歴史の発展段階に即して生まれ、変容し、現代に至っています。歴史のなかの家族の形成と結婚のあり方について、ジェンダー（男女の性差）の視点を取り入れて考えていきます。

#### 到達目標

- ①家族に関する基礎的な知識を得、「家族」が歴史的に形成されたものであることを理解できる。
- ②家族のあり方と社会の基本的なしくみが密接に結びついており、女性の生き方が社会のしくみに大きく影響されていることを理解できる。

#### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容 準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習の方法などを説明します。	
	授業後は、説明内容をよく理解しておくこと。	30
第2回	現代の家族のかたち(1) ・メディアで表現される典型的な家族像が、受け手にどのような問題を投げかけるのかを考えます。	
	現代の家族像について、テレビ・映画・小説などがどう描いているのかを注意してしておくこと。授業終了後は、ポイントを整理すること。	60
第3回	現代の家族のかたち(2) ・生涯未婚率、終活などの事例を取り上げます。	
	現代の家族について、各種統計を調べておくこと。授業終了後は、配布プリントとノートを読み直し、ポイントを整理すること。	60

第4回	「家」のはじまりを考える ・「家族」の範囲ってどこまででしょうか？古代と現代では、どれだけ違う？	
	古墳時代から平安時代までの日本史を振り返っておくこと。授業終了後は配布プリントとノートを読み返し、ポイントを整理しておくこと。	60
第5回	経営体としての「家」を考える (1) ・何気なく使う「家」という単語ですが、複数の意味があることを考えてみます。	
	奈良・平安時代から鎌倉幕府成立までの日本史を振り返っておくこと。授業終了後は配布プリントとノートを読み返し、ポイントを整理しておくこと。	60
第6回	経営体としての「家」を考える (2) ・室町から戦国時代をへて江戸時代へ。それぞれの時代の「家」とは何だったのかをみていきます。	
	室町・戦国時代から江戸時代までの日本史を振り返っておくこと。授業終了後は配布プリントとノートを読み返し、ポイントを整理しておくこと。	60
第7回	財産と相続のしくみ (1) ・古代や中世女性の財産作りの才覚と、財産処分、相続の実態を考えます。	
	古墳時代から平安時代までの日本史を振り返っておくこと。授業終了後は配布プリントとノートを読み返し、ポイントを整理しておくこと。	60
第8回	財産と相続のしくみ (2) ・血縁主義って本当でしょうか？相続における「養子」の意味も含め考えます。	
	鎌倉幕府成立以降、明治維新までの日本史を振り返っておくこと。授業終了後は配布プリントとノートを読み返し、ポイントを整理しておくこと。	60
第9回	子どもの教育 (1) ・「おまえが男だったら」と父を嘆息させた幼き紫式部。平安貴族の教育現場をみてみましょう。	
	おもに平安時代～鎌倉時代の日本史を振り返っておくこと。授業終了後は配布プリントとノートを読み返し、ポイントを整理しておくこと。	60

第10回	<p>子どもの教育 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>江戸時代の武士の日記を読みながら、父の子育てをみてみましょう。</li> </ul>	
	<p>江戸時代の社会について事前に調べておくこと。授業終了後は配布プリントとノートを読み返し、ポイントを整理しておくこと。</p>	60
第11回	<p>性と賣売春</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本では、賣売春はいつから始まったのでしょうか？江戸時代の遊郭までを考察します。</li> </ul>	
	<p>江戸時代の社会について事前に調べておくこと。授業終了後は配布プリントとノートを読み返し、ポイントを整理しておくこと。</p>	60
第12回	<p>葬送の歴史 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>喪葬と墓は、家族関係を考えるキーポイントの一つです。葬礼から家族のあり方をみていきます。</li> </ul>	
	<p>古墳時代～平安時代の日本史を振り返っておくこと。授業終了後は配布プリントとノートを読み返し、ポイントを整理しておくこと。</p>	60
第13回	<p>葬送の歴史 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夫婦が同じ墓に埋葬されるのはいつごろからでしょうか。別墓から同墓への変化の過程を考察します。</li> </ul>	
	<p>鎌倉時代～幕末・明治維新史を振り返っておくこと。授業終了後は配布プリントとノートを読み返し、ポイントを整理しておくこと。</p>	60
第14回	<p>歴史のなかの家族の変遷</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家族の形成過程と結婚の歴史をふりかえります。</li> </ul>	
	<p>全体を振り返り、ポイントを整理しておくこと。</p>	60
第15回	<p>まとめとテスト</p>	
	<p>全体を振り返り、半年の授業内容を理解しておくこと。</p>	120



#### 授業の方法

配布プリントをもとに、講義内容を詳述します。授業内テストのほか、小レポートを実施します。

#### 成績評価の方法

テスト、小レポートの内容、平常点（授業への参加状況や積極性の有無）などで総合的に判断します。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本史。

#### テキスト

授業中に随時配布します。

#### 参考書

服藤早苗監修・伊集院葉子他著『歴史のなかの家族と結婚』（森話社、2011年）

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後、教室で受け付けます。

科目名	アジア地域理解		
教員名	宋 苑瑞		
科目ナンバー	1201497010	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

テーマ・概要	
<p>世界人口の約6割を占めるアジア地域について人文地理・自然地理の両側面から理解を深めていきます。アジアの様々な文化を学び、日本との関係や現代の産業的特徴などを取り上げます。</p>	

到達目標	
<p>DP1（教養の取得）およびDP3（他社との協働）を実現するため、以下の到達目標とします。 アジア地域の各国の文化の違いや自然環境の違いを学び、今後の発展可能性について理解できる。</p>	

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	アジア地域理解イントロダクション 外国から見た日本	
	特になし	60
第2回	韓国（1） 韓国の社会と文化	
	レポート①	90
第3回	韓国（2） 韓国の自然環境	
	キーワードのまとめ	60

第4回	韓国と北朝鮮	
	キーワードのまとめ	60
第5回	中国 (1) 中国の社会と文化	
	キーワードのまとめ	60
第6回	中国 (2) 中国の自然環境	
	キーワードのまとめ	60
第7回	台湾 台湾の文化と自然環境	
	キーワードのまとめ	60
第8回	タイ タイの文化と自然環境	
	キーワードのまとめ	60
第9回	ベトナム ベトナムの社会と自然環境	
	キーワードのまとめ	60

第10回	カンボジア カンボジアの文化と自然環境	
	キーワードのまとめ	60
第11回	フィリピン フィリピンの産業と環境	
	キーワードのまとめ	60
第12回	ミャンマー ミャンマーの文化と自然環境	
	キーワードのまとめ	60
第13回	マレーシアとシンガポール マレー半島の社会と自然環境	
	キーワードのまとめ	60
第14回	インドネシア インドネシアの文化と自然環境	
	キーワードのまとめ	60
第15回	まとめ	
	レポート②	90

#### 授業の方法

配布資料は授業後にSEIKEI PORTALにアップロードします。  
授業と連動しツイッターで授業内容や情報を発信します。

#### 成績評価の方法

レポート 2回 40 %  
期末試験 40 %  
平常点 20 %

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

#### テキスト

特になし

#### 参考書

『世界地誌シリーズ 東南アジア・オセアニア』菊地俊夫・小田宏信編，朝倉書店，3400円，ISBN：978-4254169270  
『変動するフィリピン』貝沼恵美・小田宏信・森島済，二宮書店，2800円，ISBN：978-4-8176-0331-9  
『東南アジアの大都市圏-拡大する地域統合-』生田真人，古今書院，2800円，ISBN：978-4-7722-5256-0  
『現代東南アジア入門』，藤巻正己・瀬川真平編，古今書院，2600円，ISBN：978-4-7722-3123-7

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。  
(非常勤講師控室、金9～10時)

科目名	ヨーロッパ地域理解		
教員名	太西 雅一郎		
科目ナンバー	1201497020	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

#### テーマ・概要

この講義では、映像資料を利用しながら、ヨーロッパのさまざまな地域の主要な文化的特徴について、その成り立ちの過程やそこに含まれる問題について考えます。各地域の文化・芸術・宗教的な多様性を歴史的な出来事とあわせて見ていくことで、特に統合化と開放という二つの運動の相互関係を明らかにしていきます。

#### 到達目標

- DP1・ヨーロッパの様々な地域や国家の現状を、歴史的背景を含めて理解する。
- DP3・多様な価値観の理解に基づき、共存の可能性を探る。
- DP5・表面的な統一性の背後に潜む歴史的・文化的な状況を理解し批判的に自己の視点で論じる力を修得する。

#### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	オーストリア帝国の都ウィーン	
	取り扱うテーマについて基本的な知識を調べておくこと	90分
第2回	フランスの首都パリ、19世紀後半の大改造	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第3回	ヒトラーのドイツ	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分

第4回	イギリス、リヴァプール、奴隷制の記憶	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第5回	アイルランド、ケルト文化に触れる	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第6回	ギリシア、古代と近代	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第7回	ノルウェー、お母さんにやさしい国	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第8回	チェコ、プラハ城をめぐる争い	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第9回	都市コルドバ、スペインとイスラーム	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分

第10回	ワルシャワ、戦争の記憶	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第11回	ヴェネツィア、アドリア海の真珠、繁栄の理由	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第12回	ウクライナをめぐる諸問題	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第13回	オランダ、さまざまな自由	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第14回	スイス、繁栄の影で	
	前回の学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておき、今回取り扱うテーマについて基本的な知識を得ておくこと。	90分
第15回	ヨーロッパとイスラーム社会	
	前回までの学習内容の復習をおこない不明箇所などを確かめておくこと。	90分



#### 授業の方法

扱う地域や国家の社会や文化がどのように成立したのか、歴史的背景を確認したうえで、映像資料なども使用しながら解説を行うとともに、その地域が抱える現代の諸問題についても併せて考察の対象とする。

#### 成績評価の方法

毎回、授業内容をメモし、授業終了時に提出する。毎回5点満点（75%）。ヨーロッパに関連する書物を一定分量（50ページ以上）読み、その要約を1500字程度にまとめ提出する（25%）。参照した書物については、書名、著者名、参照したページを明記すること。要約レポートの提出は、学期を通して随時、授業時に受け付ける。要約レポートの提出締切は最終授業回とする。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

現在、諸地域の抱える諸問題や主要な歴史的経緯について知っておくことが望ましい。  
異文化理解A, B

#### テキスト

テキストは使用しません。

#### 参考書

適宜、指示します。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	北米地域理解		
教員名	小田 隆史		
科目ナンバー	1201497030	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 後期

#### テーマ・概要

このクラスでは、北米地域の社会について、様々な角度から光を当てて、その地域の地理、歴史、政治、文化等に対する理解を深める。特に、北米都市社会のまちづくり、多様な価値観を有する人々が共に暮らす社会のあり方や課題などのトピックを扱う。また、北米社会を理解するにあたって必要な英語力の向上にもプラスになる話題にも触れる。

#### 到達目標

北米の各国における社会、政治、文化の特徴を理解する。

#### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	北米大陸の地理～多様な自然環境		
	地図を見て北米地域の位置関係		60
第2回	アメリカ合衆国の成立の歴史		
	先住民の歴史～独立～戦後		60
第3回	アメリカ合衆国の政治と社会		
	大統領制、連邦制		60

第4回	アメリカ合衆国の地方自治と都市	
	日本の地方自治制度との比較から	60
第5回	カナダの歴史と現在 (ゲストスピーカー)	
	自然環境、多文化主義、フランス語圏	60
第6回	北米(合衆国・カナダ)への国際移動～移民・難民	
	越境した人々の新天地アメリカ	60
第7回	北米日系人コミュニティの歴史	
	移住～第二次世界大戦～強制収容	60
第8回	北米日系人コミュニティの現在	
	同化と文化継承をめぐって	60
第9回	多文化共生の北米都市社会	
	公民権運動～モザイク、メルティングポット、サラダボウル	60

第10回	都市貧困、犯罪、銃社会アメリカ	
	インナーシティ問題と多重剥奪	60
第11回	9.11同時多発テロと合衆国	
	テロ、戦争とアメリカ政治、経済、社会	60
第12回	北米社会と「新しい公共」	
	NPO、社会起業家、ガバナンス	60
第13回	北米ポップカルチャー	
	ハリウッド、メジャーリーグ、NBA	60
第14回	北米での暮らし～留学や仕事で生活するために	
	留学、インターンシップ、在外勤務のための北米理解	60
第15回	まとめ	
	これまでの学習を振り返る	90

#### 授業の方法

講義で地理や文化の情報を提供しつつ、一部では学生参加型の授業形態を取る。アメリカやカナダに留学を考えている学生に役立つ話題にも触れる。実用的な英語コミュニケーションについてもトピックとして扱う予定。

#### 成績評価の方法

原則として平常点(60%)、授業内レポート(10%)、期末試験(30%)。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識/先修科目/関連科目

北アメリカの地理と歴史; 授業計画にあげた主題などについて基本的な知識。

#### テキスト

多人数の授業につき、資料は原則として「SEIKEI PORTAL」を通じて電子配布しますので、各自印刷もしくは端末機器を持参しメモを取ることができる環境を確保する必要があります。

#### 参考書

クラスで適宜紹介します。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	イスラーム世界理解		
教員名	堀内 正樹		
科目ナンバー	1101497040	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 後期

### テーマ・概要

イスラームは「宗教」として理解されがちだが、すでに千数百年間、アフリカからユーラシアにわたって、多民族・多文化が共生する広大な社会空間の秩序維持ルールとして機能してきた。本授業では、「社会システム」としてのイスラームのあり方を理解してもらう。そのためにまずは西欧中心主義的な従来の世界史像を大胆に放棄し、本来の世界史の流れとその特徴を理解する。そのうえで、歴史の主潮流を形作ってきたイスラーム世界の特徴と西欧近代世界の特徴を対比的に捉える。その認識を足場にして、脱境界的・脱国家的な本来の人間社会のあり方を、イスラームをモデルに探っていく。

### 到達目標

DP1（教養の修得）およびDP2（課題の発見と解決）を実現するため、次の3点を到達目標とする。

1. イスラームを過大評価も過小評価もしない自然な理解に到達する。
2. 欧米の報道等によって形作られるイスラームへの偏見を自覚できるようになる。
3. 非境界的な本来の人間関係のあり方を理解し、説明できる。

### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス：授業の内容、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 導入：信仰としてのイスラームと国際法としてのイスラーム ・西欧発の「宗教」という概念の特殊性を認識し、それを相対化する。 ・イスラームの基本的世界観を把握する。	
	[予習]自分がもっているイスラームについての情報を整理しておく。	60
第2回	イスラームの基礎知識(1) ・六信五行について学修する。 ・イスラームの基本的な行事を理解する。	
	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90
第3回	イスラームの基礎知識(2) ・イスラーム法学派の区別と役割について学修する。	
	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90

第4回	<p>イスラームの基礎知識 (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーランとハディースの成り立ちと性格について理解する。</li> </ul>	
	<p>[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。</p>	90
第5回	<p>中東のキリスト教とユダヤ教</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イスラーム世界が多宗教からなっていることを学修する。</li> </ul>	
	<p>[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。</p>	90
第6回	<p>歴史認識の組み替え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西欧近代中心主義的な歴史観の偏りと限界を理解する。</li> <li>・「世界史」という概念の成立とその目的を学修する。</li> <li>・イスラーム世界の世界史上の位置を理解する。</li> </ul>	
	<p>[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。</p>	90
第7回	<p>非境界型市場システムとしてのイスラーム世界(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「バザール型社会システム」の成立条件としくみを学修する。</li> </ul>	
	<p>[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。</p>	90
第8回	<p>非境界型市場システムとしてのイスラーム世界(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市場 (=社会) 秩序維持に果たすイスラームの機能を学修する。</li> </ul>	
	<p>[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。</p>	90
第9回	<p>非境界型市場システムとしてのイスラーム世界(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的ネットワークの要としてのサウジアラビアとモロッコの位置を理解する。</li> </ul>	
	<p>[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。</p>	90

第10回	<p>西欧発の境界型社会システム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・19世紀に出現した西欧発の特殊な認識のしくみを学修する。</li> <li>・そのしくみが特殊な社会システムを作り上げたプロセスを理解する。</li> </ul>	
	<p>[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。</p>	90
第11回	<p>音声言語中心主義の弊害</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近代西欧社会（国民国家）の支柱となったイデオロギーのレトリックを理解する。</li> <li>・その母胎である音声言語中心主義の限界を学修する。</li> </ul>	
	<p>[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。</p>	90
第12回	<p>非境界的コミュニケーション・システム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イスラーム世界本来の非境界的なコミュニケーションのあり方を学修する。</li> </ul>	
	<p>[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。</p>	90
第13回	<p>現代の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・20世紀後半以降にイスラーム世界に生じた政治体制のジレンマを学修する。</li> <li>・開発経済の挫折等によって生じた経済システムのジレンマを学修する。</li> <li>・イスラーム法と欧米法の矛盾・調整過程を学修する。</li> </ul>	
	<p>[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。</p>	90
第14回	<p>達成度確認テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学修内容についての理解を確認するためのテストを行う。</li> </ul>	
	<p>[予習]到達度確認テストに備え、これまでの学習内容を確認する。</p>	120
第15回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・到達度確認テストの解説と質疑応答</li> <li>・授業の総括</li> </ul>	
	<p>[復習]到達度確認テストの結果を受けてこの授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識を学修する。</p>	60



#### 授業の方法

パワーポイントを多用する講義になる。配布物は用意しないが（必要なものに限ってPDFを「授業資料」にアップする）、それはメモの取り方を各人に工夫してもらうためである。教員の話す言葉をどのように記録するか、その工夫は単に授業のみならず、実際の社会関係・人間関係の営みにも要求される技術であるとともに、イスラーム世界を理解するときの不可欠なスキルでもある。それを実践を通じて体得して欲しい。

#### 成績評価の方法

到達度確認テスト（50%）、講義中の発言や質問など授業への参加状況（50%）などによる総合評価。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・イスラームの基礎知識を明確に説明できる。
- ・「世界史」という考え方を理解し、説明できる。
- ・境界型社会システムと非境界型社会システムの違いを明確に把握し、説明できる。
- ・現代の課題を明瞭に指摘できる。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

#### テキスト

特になし

#### 参考書

- (1) Itagaki, Yuzo 「Middle Eastern Dynamics of Identity Complex: A Teaching Scheme with Illustrational Materials」 『日本中東学会年報』16巻、2001年。
- (2) 三木亘『悪としての世界史』（文春学藝ライブラリー）2016年、文藝春秋。
- (3) 家島彦一『イスラーム世界の成立と国際商業-国際商業ネットワークの変動を中心に』1991年、岩波書店。
- (4) Geertz, Clifford. 1979 "Suq: the bazaar economy in Sefrou" in 『Meaning and Order in Moroccan Society.』 (C. Geertz & Geertz. H eds., ), Cambridge University Press, London.
- (5) ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体-ナショナリズムの起源と流行』（白石隆・白石さや訳）1987年、リプロポート。
- (6) エドワード・W・サイード『オリエンタリズム』（今沢紀子訳）1986年、平凡社。
- (7) 川田順造『口頭伝承論（上）』2001年、平凡社。
- (8) 水野信男・西尾哲夫・堀内正樹（編）『アラブの音文化-グローバル・コミュニケーションへのいざない』2010年、スタイルノート。
- (9) 堀内正樹「境界的思考から脱却するために-中東研究がもたらすもの」『国際文化研究の現在』（成蹊大学文学部国際文化学科編）2005年、柏書房。
- (10) 堀内正樹「世界のつながり方に関する覚え書き」『成蹊大学文学部紀要』第49号、2014年。
- (11) 堀内正樹・西尾哲夫（編）『<断>と<続>の中東-非境界的世界を遊ぶ』2015年、悠書館
- (12) 西尾哲夫・水野信男（編）『中東世界の音楽文化-うまれかわる伝統』2016年、スタイルノート。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	地域理解トピックス（地元学実践演習）		
教員名	小田 隆史		
科目ナンバー	1101498010	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 後期

### テーマ・概要

この授業では、地域を理解する＝地域の実態を把握するための手法を学ぶことを目的とします。地域を知ることが、社会の一員として、その地域の課題に気づき、解決のため行動したり、環境や災害などの観点から、持続可能な地域づくりに関わりをもつ主体になるためにも必要なことです。そこでこの授業では、地域の実態を把握するためのさまざまな手法（＝地域調査の手法）を、わたしたちが生活する身近な地域や他の地域の事例（まちおこし、コミュニティ防災等）を題材として具体的に学びます。

講師は、東日本大震災をはじめ、国内外の災害被災地の復興や地域防災について研究しており、そうした実践的テーマを扱うこともあります。主体的・積極的に演習に関わることができる学生の履修を歓迎します。

### 到達目標

1. 地図に関する基本的なことがらを理解し、説明できる。
2. 関するさまざまな事象を地図化し、それを読みとる力を身につける。
3. 地域活性化に役立つワークショップの手法を理解できる。
4. 地域に関する資料を自ら作成し、それについて発表できる。

### 授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	1. 導入：地域を理解するために ここでは、授業のすすめ方について説明するとともに、この授業で学ぶ、地域の実態を把握するためのさまざまな手法（＝地域調査の手法）について概説します。	
	【予習】シラバスを熟読し、授業のテーマ・概要、授業の計画・内容を把握する。 【復習】授業のテーマ・概要、授業の計画・内容のほか、成績評価の方法・基準について、あらためて確認する。	【予習】30分 【復習】30分
第2回	2. 地図の利用（1） ここでは、地域調査において不可欠となる地図（地形図）について、その基本的なことがらを学びます。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。	【復習】60分
第3回	3. 地図の利用（2） ここでは、前回の授業をふまえて、身近な地域の地形図を用いて、実際に“地図を読む”作業をおこないます。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。	【復習】60分

第4回	4. 地域に関する資料(1) ここでは、地域に関する統計資料について紹介・概説します。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。	【復習】60分
第5回	5. 地域に関する資料(2) ここでは、地域に関する統計資料を整理し、加工する方法について紹介・概説します。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。復習テスト(第1回)にむけて準備する。	【復習】60分
第6回	6. 地域に関する資料(3) ここでは、身近な地域に関する統計資料を用いて、統計からどのようなことが読みとれるのかを、具体的に学びます。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。	【復習】60分
第7回	7. 地域活性化ワークショップ(1) ここでは、地域活性化を多様な人々と参加型で検討するワークショップの方法を学びます。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。	【復習】60分
第8回	8. 地域活性化ワークショップ(2) ここでは、地域活性化を多様な人々と参加型で検討するワークショップの方法を学びます。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。	【復習】60分
第9回	9. 地域活性化ワークショップ(3) ここでは、地域活性化を多様な人々と参加型で検討するワークショップの方法を学びます。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。	【復習】60分

第10回	10. 地域活性化ワークショップ(4) ここでは、地域活性化を多様な人々と参加型で検討するワークショップの方法を学びます。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。復習テスト（第2回）にむけて準備する。	【復習】60分
第11回	11. 地域活性化ワークショップ(5) ここでは、地域活性化を多様な人々と参加型で検討するワークショップの方法を学びます。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。	【復習】60分
第12回	12. 地域に関する文献・資料の探索 ここでは、地域に関する文献・資料を探索する方法について、担当者の経験もふまえて概説します。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。	【復習】60分
第13回	13. 現地での調査（1） ここでは、地域調査のなかでも重要な、現地での資料の探索、インタビューについて、担当者の経験もふまえて概説します。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。	【復習】60分
第14回	14. 現地での調査（2） ここでは、地域調査において重要な「歩く・観る・考える」の実践について、担当者の経験もふまえて概説します。	
	【復習】ノートなどをもとに、授業の内容を確認する。	【復習】60分
第15回	15. まとめ-地域調査の重要性- ここでは、この授業で学んできた、地域の実態を把握するためのさまざまな手法（＝地域調査の手法）について、その全体像・重要なポイントをあらためてまとめます。	
	【復習】この授業で学んできた、地域の実態を把握するためのさまざまな手法（＝地域調査の手法）について、ノートなどをもとに、あらためて確認する。	【復習】60分

#### 授業の方法

授業は、講義と実習（授業中に、もしくは課題として、各自でおこなう作業）を組みあわせつつ、展開される予定です。受講者との双方性にもできる限り配慮します。なお、授業の進度により、内容を変更することがあります。  
※毎週の授業に代えて課外フィールド調査／ワークショップ等を含む「一部集中」形式として実施する予定です。

#### 成績評価の方法

成績評価のめやすは、平常点（80%）、その他レポート（20%）となります。

#### 成績評価の基準

成績評価の基準は、成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。

#### 必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくにありません。受講者は、各自でインターネットを利用できる環境を準備しておいてください。  
※参加者の学年、関心等により内容を変更して実施します。

#### テキスト

授業の進行にあわせて、関連する資料を配付します。授業に関する連絡は「SEIKEI PORTAL」を活用します。

#### 参考書

必要に応じて、関連する文献を紹介します。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業内容に関する質問などについては、毎回、授業の終了後、教室において対応します。

科目名	地域理解トピックス（地域づくりの時代）		
教員名	小金澤 孝昭		
科目ナンバー	1201498020	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2019年度 前期

**テーマ・概要**

①テーマ「地域づくりと地域調査の実際」  
 ②概要 地域づくり・地域活性化は、古くからのテーマだが、最近では社会の変化に応じて地域づくりの方法も変化してきた。地域経済・地域社会の活性化は、雇用の確保、人口の安定、社会・生活条件の整備が確保されることから始まる。この講義では、雇用、人口、生活の3つの視点に注目した地域づくりの調査方法と地域活性化の内容を考えていきたい。検討する地域としては、被災地域、都市地域（大都市・地方都市）、人口減少地域の4つを取り上げた。

**到達目標**

地域づくりの柱である雇用の確保（産業振興）、人口の安定（定住人口＋交流人口）、生活条件の整備（地域資源・環境＋社会資本）とは何かを理解することである。また、地域問題のキーワードの理解と、地域調査分析の基本的な技法（主題図作成、統計分析、地域調査方法の手順）を理解する。

**授業の計画と準備学修**

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	はじめに 『地方消滅』に代表される現在の日本が抱える地域問題として、この講義では①東日本大震災の被災地域の抱える問題、②大都市部の高齢化問題、少子化問題③地方都市の問題、④「限界集落」を含む人口減少地域の人口問題の3つを取り上げる。この3つの問題を①地域問題の確認作業の方法②地域調査の方法③地域づくり・地域活性化の方法から把握し、その実際を解説する。	
	復習 講義内容と、基本資料についての理解内容をワークシートにまとめる。	60
第2回	I部 被災地域の復興 ①津波の被害の地域差： 宮城県内のリアス地形地域、遠浅海岸地域、海岸地域での都市化地域における被害状況の地域差の実態とその要因について考察する。気仙沼地域の被災地域について地図作業を行なう。	
	復習 地図作業による久一致期の範囲の確認	60
第3回	②気仙沼地域の復旧復興の方向について考える。 ここでは、気仙沼地域の産業振興による復興を事例にする。この地域の産業振興の対象は、水産業と観光産業である。産業振興を産業連関という視点から進める場合の調査方法を学ぶ。また、被災地域の都市計画についても考察する。	
	復習 気仙沼地域の復興について、テキストの論文を読み、ワークシートにその内容をまとめる。	80

第4回	<p>Ⅱ部 大都市の少子高齢化問題</p> <p>①少子・高齢化問題の構造</p> <p>少子高齢化社会とはどんな問題を抱えているかを明らかにする。人口問題としての少子。高齢化問題を分析する。人口減少の要因についても考える。また地域の人口問題をコーホート分析を利用して考察する。</p>	
	<p>予習 テキストの論文を読んで小レポートを作成する。</p>	60
第5回	<p>②都市地域の少子化問題の要因</p> <p>少子化の問題については、待機児童の問題を東京の事例から考察する。</p>	
	<p>復習 少子化と待機児童が生まれる要因について考察するワークシートを完成させる。</p>	60
第6回	<p>③都市地域の高齢化問題</p> <p>首都圏の高齢化の進み具合と、その地域の特徴について分析する。具体的には、昭和一桁世代とベビーブーム世代、第2次ベビーブーム世代の居住地域を比較しながら、高齢化の地域問題を考察する。</p>	
	<p>復習 首都圏の高齢化の地図を使って、ワークシートを完成させる。</p>	60
第7回	<p>④住宅団地の高齢化問題</p> <p>住宅団地の高齢化問題を、郊外に立地する東京の集合住宅団地を事例に分析する。方法としては、住民のライフステージに注目して考察する。</p>	
	<p>予習 前の講義で提起されたテキストの論文についてのレポートを作成する。</p>	60
第8回	<p>Ⅲ部 地方都市の少子高齢化問題(仙台)</p> <p>①地方都市の住宅地化、郊外化</p> <p>住宅団地の郊外化と高齢化問題を仙台を事例に調査考察する。</p>	
	<p>復習 地方都市の高齢化の地図を使って、ワークシートを完成させる。</p>	60
第9回	<p>②都市の高齢化と買い物弱者</p> <p>都市部で生起している、買い物弱者問題や交通弱者問題を地方都市、仙台を事例に分析する。</p>	
	<p>復習 都市の少子高齢化問題のまとめについてワークシートを完成させる。</p>	60

第10回	③地方都市周辺の外国人労働力の問題 地方都市では、労働力不足を日本語学校や専門学校の留学生を活用することで対応している。地方の農村地域の中小企業は、外国の技能実習生の老翁力に依存している。	
	予習 前の時間に提起した論文についてのワークシートを完成させる。	60
第11回	IV部 人口減少地域～限界集落 ①限界集落とはどうして生まれるのか？ 人口減少地域はどうして生まれるのかを考察する。特に「限界集落」とは何かを講義する。	
	復習 講義内容をワークシートにまとめる。	60
第12回	②限界集落の具体的な問題は何か？ 福島県の西会津町を事例にして、高齢化地域の現実について、介護問題、人口減少、集落機能の低下などの問題点を明らかにする。	
	予習地域の基本的統計作業を行なう。	60
第13回	③人口減少地域での地域政策 地方自治体の地域振興策として行なわれている、産業振興としての農業振興と誘致企業政策や情報受発信政策（ケーブルテレビ）の効果、交通インフラの整備（除雪、デマンドバス）等について検討する。	
	復習 講義内容のワークシートを完成させる。	60
第14回	④地域活性化の具体策 福島県の『大学生の力を活用した地域活性化策』の事例を使って、地域調査の方法や地域活性化イベントについて紹介する。地域振興を進める上でいかに交流人口をどのように増加させるかを、西会津町の上谷地区、富士地区、山浦地区を事例に検討する。	
	予習 講義内容の確認 テストの準備を行う。	60
第15回	到達度確認テスト この講義で何を学んだかを明らかにするテストを行う。	
	復習 不足している学習内容の点検	60



#### 授業の方法

基本的に講義形式で行うが、必要に応じて作業学習や討論形式の授業、ビデオ教材などを活用する。

#### 成績評価の方法

2回程度課すレポートや作業課題(40%)、期末試験(40%)、講義中の出席状況(10回以上の出席が前提)や発言、質問(20%)で評価を行う。

#### 成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

#### 必要な予備知識/先修科目/関連科目

地域活性化に関連する記事がたくさん新聞に掲載されるので、複数の新聞をきちんと読んでください。必要に応じてスクラップしておくとならば就活に有利です。

#### テキスト

テキストは、自主テキスト『現代の地域問題~震災復興・都市の少子高齢化・限界集落~』を使用する。  
入手方法については、講義中に指示する。

#### 参考書

これについては、講義中に指示する。

#### 質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。